

II 調査結果

1. 仕事について

問6で、現在回答者自身が「仕事をしている」と回答された方

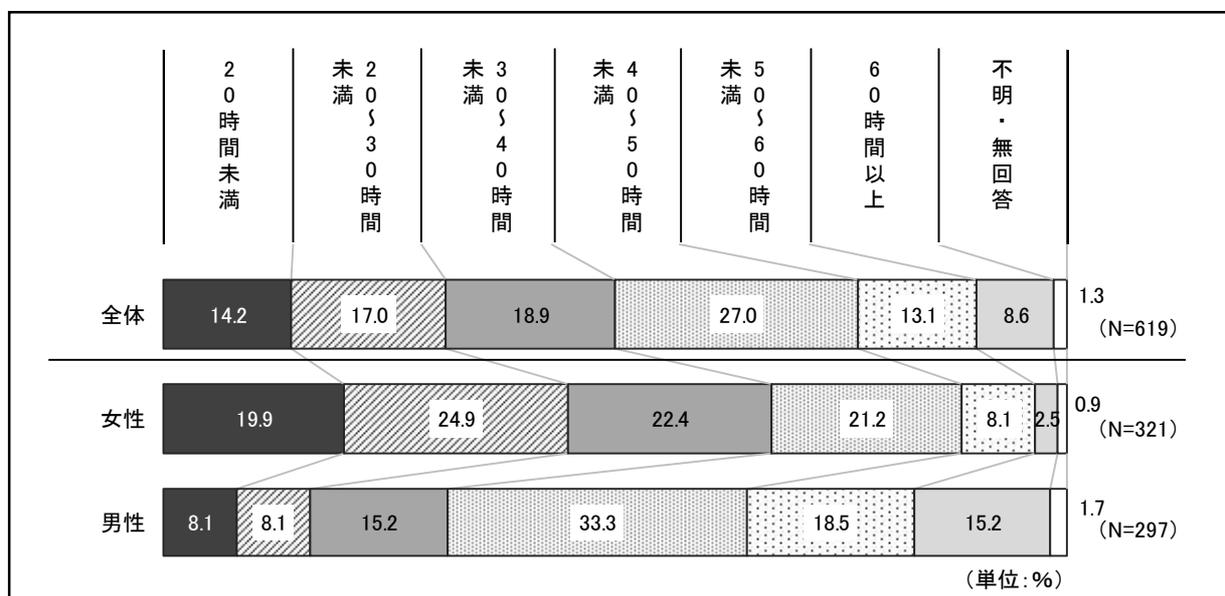
問8 あなたは、1週間でおよそ何時間くらい働いていますか。(残業時間も含みます)
(○は1つ)

■男性の週60時間以上働く長時間労働者は15.2%

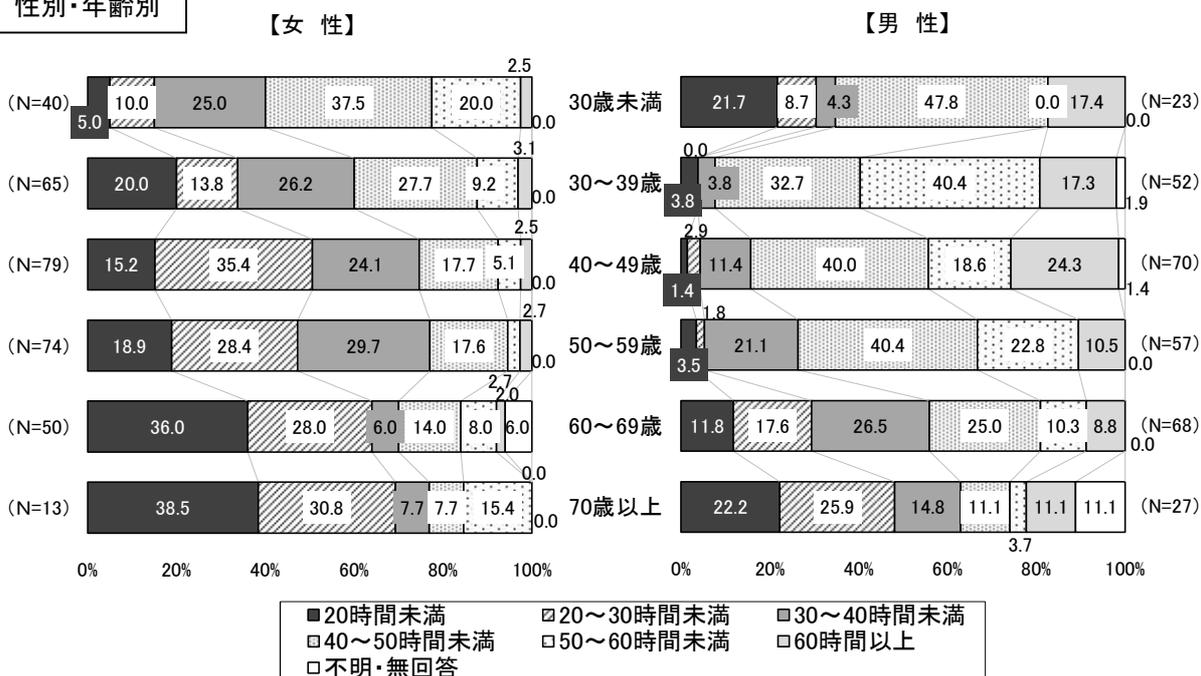
全体では、40時間未満(法定労働時間、一部規模・業種を除く)は50.1%となっており、女性では67.2%、男性では31.4%となっています。

性別・年齢別にみると、女性では40歳未満で、男性では60歳未満で40時間以上の割合が高く、特に男性の40～49歳では「60時間以上」が24.3%と長時間労働が多くなっています。

性別・就業形態別にみると、会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人では40時間以上の割合が女性で75.0%、男性で83.0%と、男女ともに大半を占めています。



性別・年齢別



性別・年齢別

		対象者数 (人)	20時間未満	20時間未満 30	30時間未満 40	40時間未満 50	50時間未満 60	60時間以上	不明・無回答
女性	30歳未満	40	5.0	10.0	25.0	37.5	20.0	2.5	0.0
	30～39歳	65	20.0	13.8	26.2	27.7	9.2	3.1	0.0
	40～49歳	79	15.2	35.4	24.1	17.7	5.1	2.5	0.0
	50～59歳	74	18.9	28.4	29.7	17.6	2.7	2.7	0.0
	60～69歳	50	36.0	28.0	6.0	14.0	8.0	2.0	6.0
	70歳以上	13	38.5	30.8	7.7	7.7	15.4	0.0	0.0
男性	30歳未満	23	21.7	8.7	4.3	47.8	0.0	17.4	0.0
	30～39歳	52	3.8	0.0	3.8	32.7	40.4	17.3	1.9
	40～49歳	70	1.4	2.9	11.4	40.0	18.6	24.3	1.4
	50～59歳	57	3.5	1.8	21.1	40.4	22.8	10.5	0.0
	60～69歳	68	11.8	17.6	26.5	25.0	10.3	8.8	0.0
	70歳以上	27	22.2	25.9	14.8	11.1	3.7	11.1	11.1

(単位:%)

性別・就業形態別

		対象者数 (人)	20時間未満	20時間未満 30	30時間未満 40	40時間未満 50	50時間未満 60	60時間以上	不明・無回答
女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	96	0.0	0.0	24.0	55.2	14.6	5.2	1.0
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	54	7.4	16.7	57.4	14.8	1.9	0.0	1.9
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	118	38.1	50.8	7.6	2.5	0.0	0.0	0.8
	自営業主・経営者(農林業を含む)	16	18.8	18.8	12.5	12.5	31.3	6.3	0.0
	自営業の手伝い、家族従業員	25	24.0	24.0	20.0	8.0	16.0	8.0	0.0
男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	177	0.6	0.6	14.7	42.4	23.7	16.9	1.1
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	20	5.0	15.0	15.0	40.0	20.0	5.0	0.0
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	28	35.7	39.3	17.9	3.6	0.0	0.0	3.6
	自営業主・経営者(農林業を含む)	57	17.5	8.8	19.3	19.3	14.0	19.3	1.8
	自営業の手伝い、家族従業員	6	16.7	0.0	0.0	33.3	16.7	33.3	0.0

(単位:%)

問6で、現在回答者自身が「仕事をしている」と回答された方

問9 あなたの昨年1年間の収入（税込み）は、おおよそいくらでしたか。（〇は1つ）

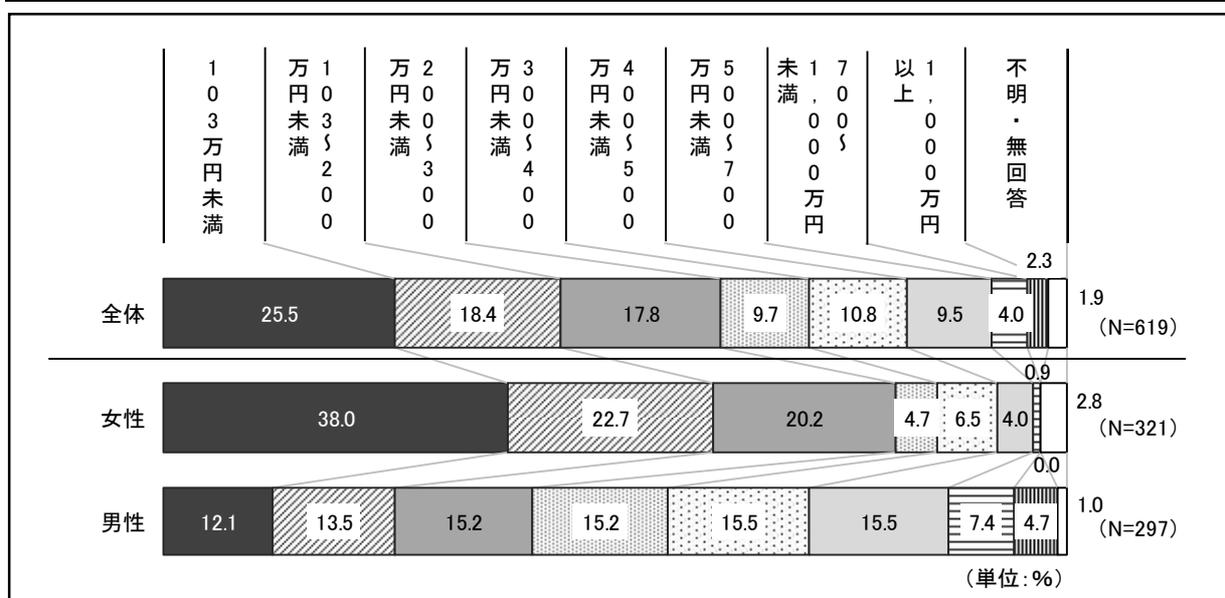
■女性の収入は200万円未満が60.7%。同じ就労形態でも女性の収入の方が低い。

全体では、「103万円未満」が25.5%と高く、女性でも同様の項目が38.0%と高くなっていますが、男性では「200～300万円未満」「300～400万円未満」「400～500万円未満」「500～700万円未満」がそれぞれ1割半ばと、各層に分散しています。

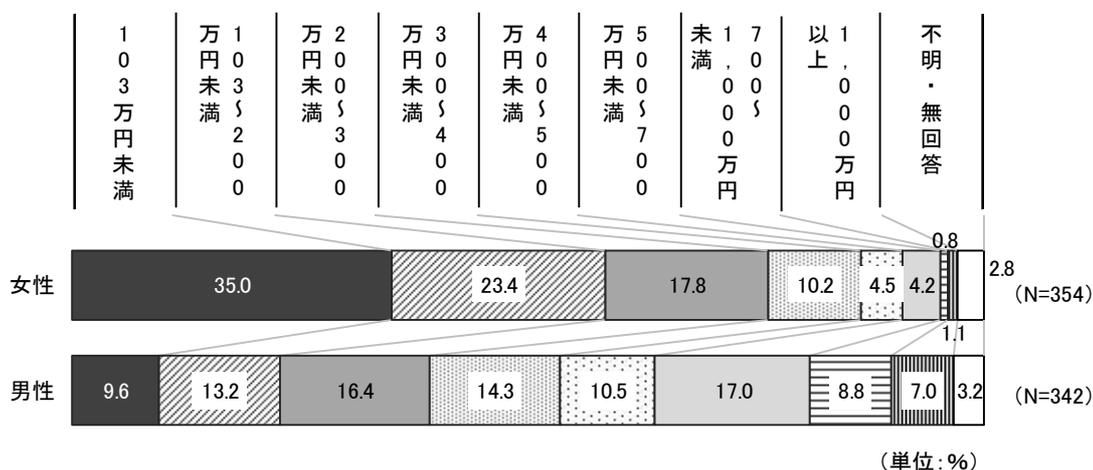
前回調査とも同様の傾向となっています。

性別・年齢別にみると、女性では200万円未満の割合は、年代が上がるほど高くなっています。一方、男性では、200万円未満は30歳未満で56.5%と女性より高くなっているものの、30～39歳では「400～500万円未満」、40～49歳では「300～400万円未満」「500～700万円未満」、50～59歳では「500～700万円未満」がそれぞれ高くなっており、30歳以上60歳未満では年代が上がるほど年収が高くなる傾向にあります。

性別・就業形態別にみると、会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人で300万円未満の割合は、女性で53.1%と半数を超えているのに対し、男性では23.8%と、女性の収入が低くなっています。



前回調査(平成21年度)



性別・年齢別

		対象者数 (人)	103万円未満	1万円0円未満	2万円0円未満	3万円0円未満	4万円0円未満	5万円0円未満	17万円未満	10万円以上	不明・無回答
女性	30歳未満	40	20.0	25.0	30.0	15.0	5.0	0.0	0.0	0.0	5.0
	30～39歳	65	27.7	20.0	30.8	4.6	13.8	1.5	0.0	0.0	1.5
	40～49歳	79	45.6	20.3	16.5	2.5	7.6	5.1	0.0	0.0	2.5
	50～59歳	74	41.9	23.0	13.5	4.1	4.1	9.5	4.1	0.0	-
	60～69歳	50	46.0	26.0	18.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	6.0
	70歳以上	13	46.2	30.8	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7
男性	30歳未満	23	39.1	17.4	30.4	4.3	0.0	4.3	0.0	0.0	4.3
	30～39歳	52	5.8	7.7	17.3	17.3	36.5	13.5	0.0	1.9	0.0
	40～49歳	70	2.9	2.9	11.4	27.1	14.3	27.1	11.4	2.9	0.0
	50～59歳	57	5.3	3.5	10.5	12.3	15.8	24.6	17.5	10.5	0.0
	60～69歳	68	13.2	29.4	20.6	11.8	8.8	7.4	2.9	5.9	0.0
	70歳以上	27	37.0	29.6	3.7	3.7	7.4	0.0	7.4	3.7	7.4

(単位:%)

性別・就業形態別

		対象者数 (人)	103万円未満	1万円0円未満	2万円0円未満	3万円0円未満	4万円0円未満	5万円0円未満	17万円未満	10万円以上	不明・無回答
女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	96	2.1	10.4	40.6	15.6	17.7	10.4	2.1	0.0	1.0
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	54	24.1	48.1	24.1	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	118	74.6	21.2	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
	自営業主・経営者(農林業を含む)	16	31.3	31.3	6.3	0.0	6.3	12.5	6.3	0.0	6.3
	自営業の手伝い、家族従業員	25	36.0	24.0	16.0	0.0	8.0	4.0	0.0	0.0	12.0
男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	177	3.4	5.1	15.3	16.4	20.3	23.7	10.2	5.1	0.6
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	20	10.0	40.0	35.0	10.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	28	71.4	21.4	3.6	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	自営業主・経営者(農林業を含む)	57	8.8	21.1	14.0	21.1	12.3	7.0	7.0	8.8	0.0
	自営業の手伝い、家族従業員	6	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位:%)

問6で、現在回答者自身が「仕事をしている」と回答された方

問10 あなたは、いまの仕事でストレス（不安や悩み）を感じていますか。

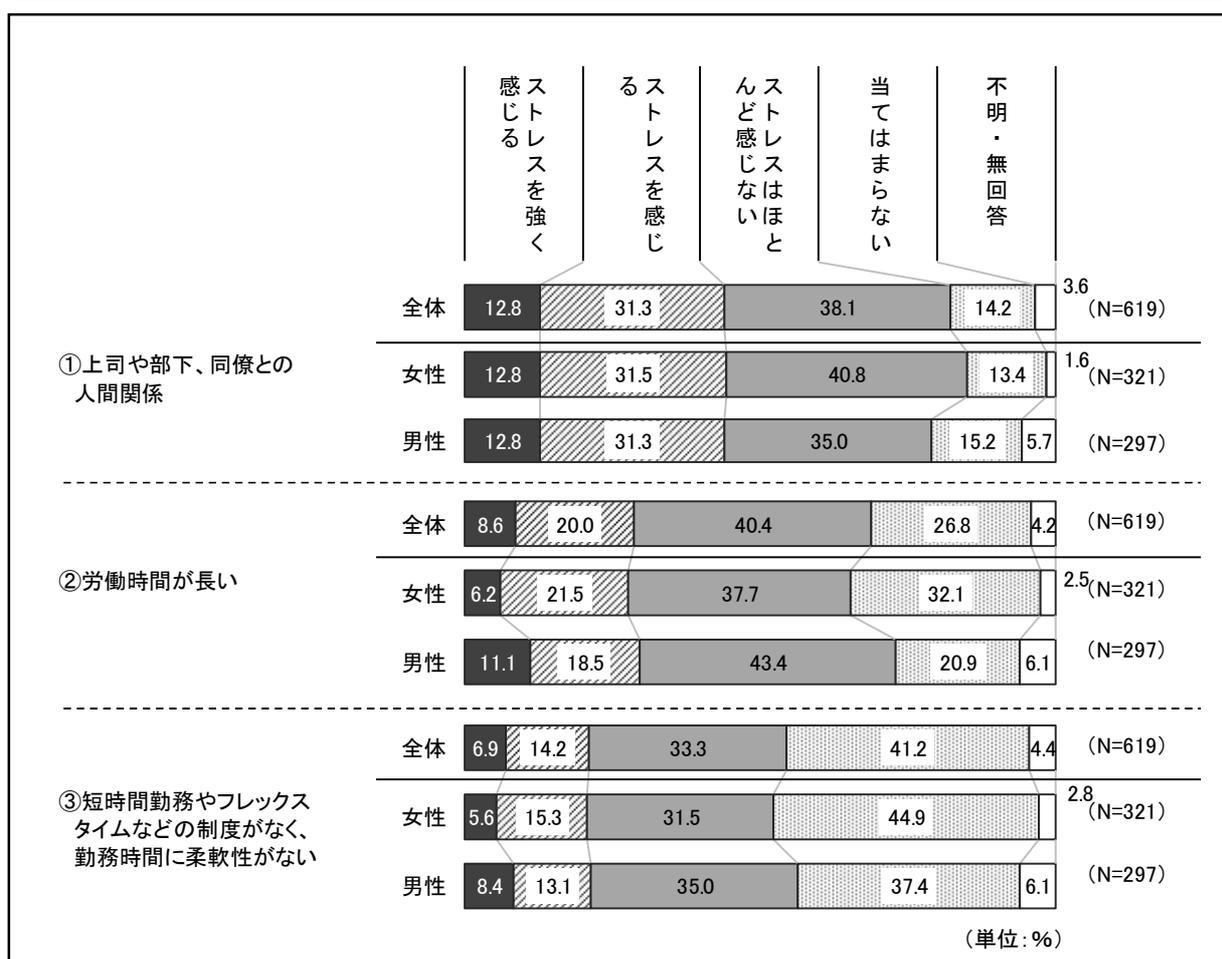
(①～⑨の項目ごとに○は1つずつ)

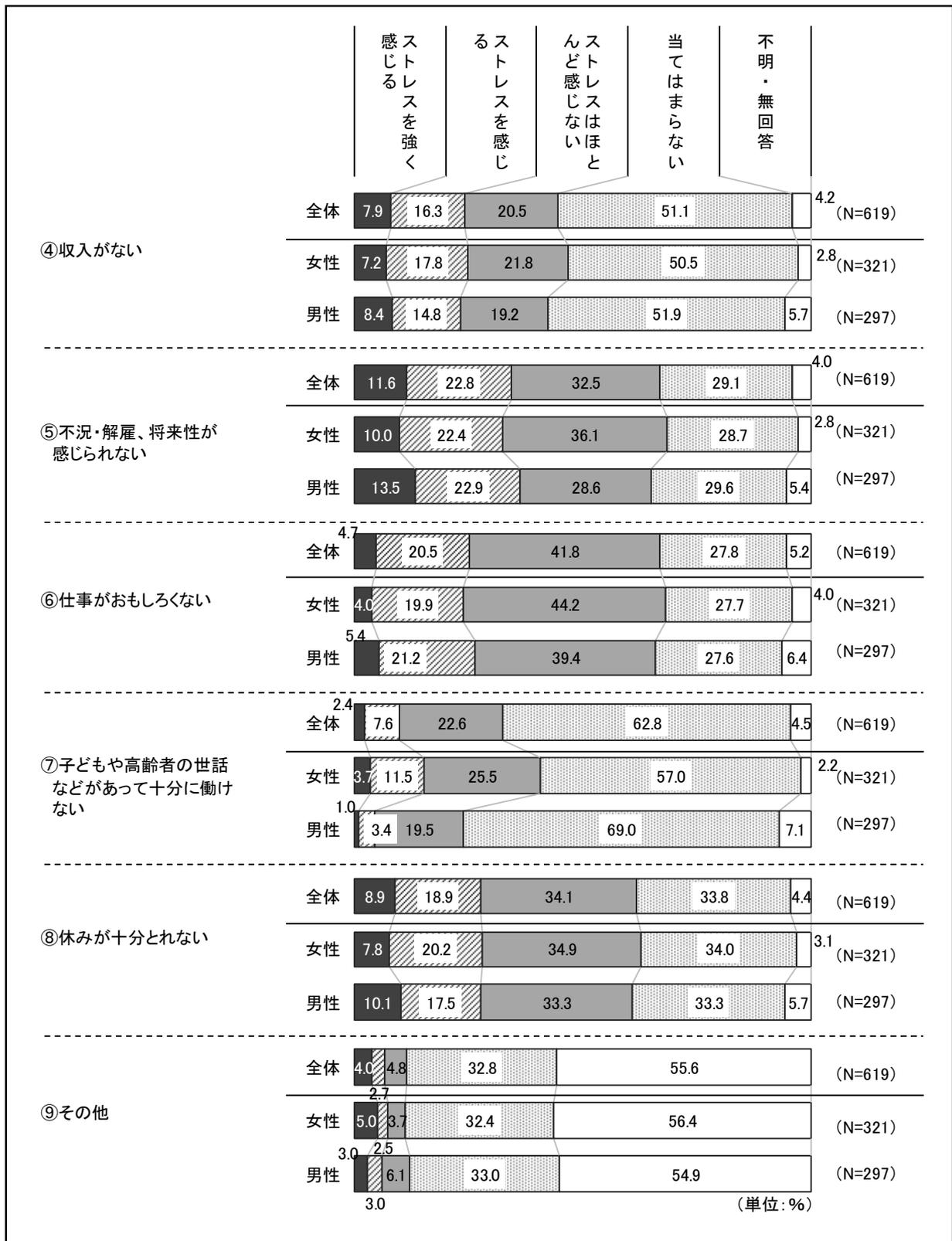
■職場の人間関係でストレスを抱えている人が多い。育児や介護のストレスの方が多。

男女ともに「ストレスを感じる」(「ストレスを強く感じる」と「ストレスを感じる」の合計)が最も高いのは『①上司や部下、同僚との人間関係』、次いで『⑤不況・解雇、将来性が感じられない』『②労働時間が長い』となっています。また、『⑦子どもや高齢者の世話などがあって十分に働けない』で「ストレスを感じる」のは、女性で15.2%、男性で4.4%と女性の方が10.8ポイント高くなっています。

性別・年齢別の状況をストレス強度係数により分析すると、「ストレスを感じる」割合の高い『①上司や部下、同僚との人間関係』『⑤不況・解雇、将来性が感じられない』『②労働時間が長い』それぞれで男性では30～39歳の数値が高くなっています。また、『⑦子どもや高齢者の世話などがあって十分に働けない』では、女性の30歳以上60歳未満で他の年代より数値が高くなっています。

性別・就業形態別の状況をストレス強度係数により分析すると、会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人では、男女ともに『④収入がない』『⑦子どもや高齢者の世話などがあって十分に働けない』以外の項目で数値が100以上と、他の就業形態に比べ高い項目が多くなっています。





性別・年齢別 ストレス強度係数

仕事に関して、どのようなことにストレス（不安や悩み）を感じているか、ストレスの強さを属性別で一覧するために、対象とする「働いている女性、男性」について、以下の定義で数値を算出し、レーダーチャートで表示して概観します。

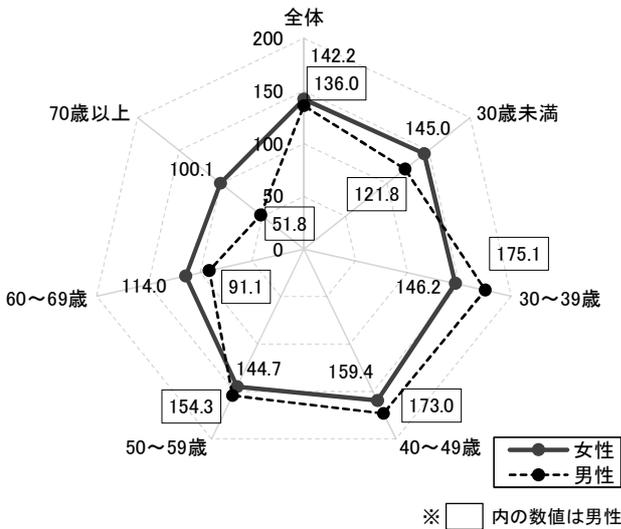
■ストレス強度係数

仕事に関して感じているストレスの強さを本報告書では、『ストレス強度係数』で表しています。

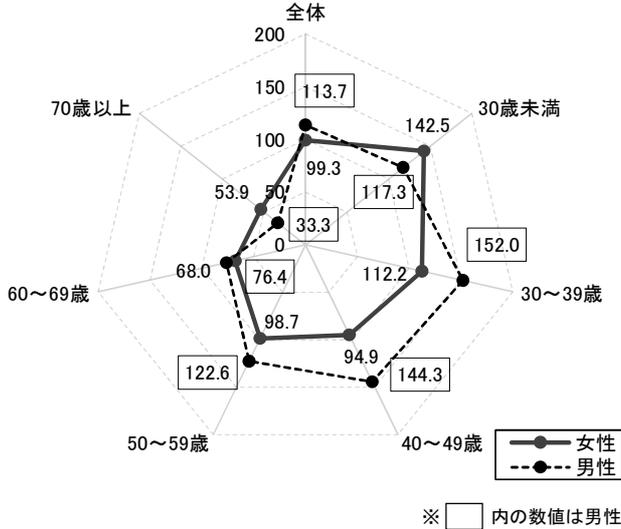
ストレス強度係数の計算方法

「ストレスを強く感じる」割合 (%)	× 3	} 合計値を 『ストレス強度係数』 とする
「ストレスを感じる」割合 (%)	× 2	
「ストレスはほとんど感じない」割合 (%)	× 1	

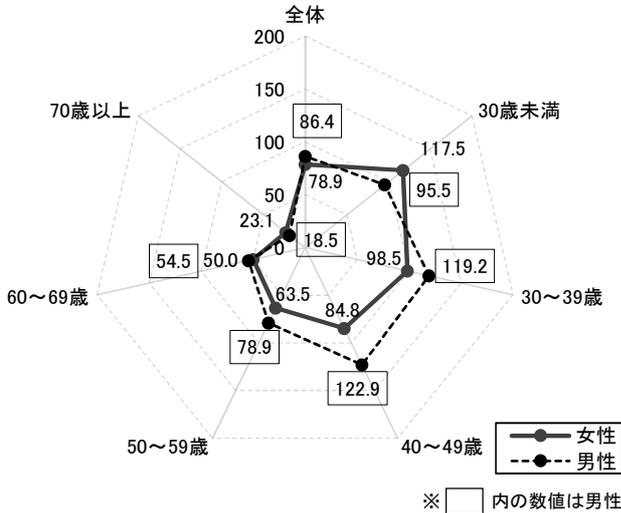
①上司や部下、同僚との人間関係



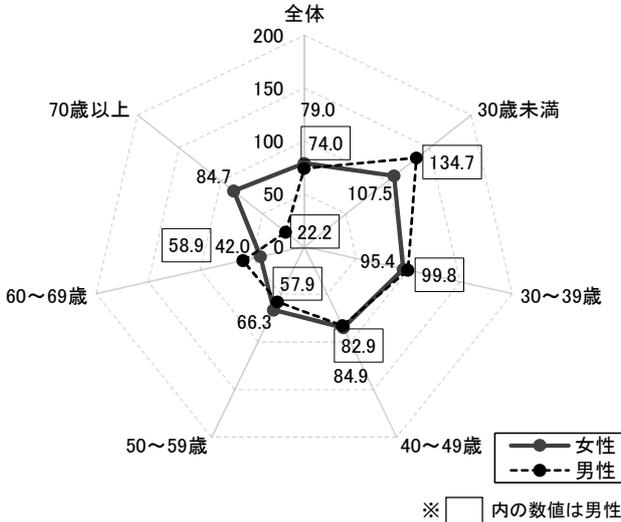
②労働時間が長い



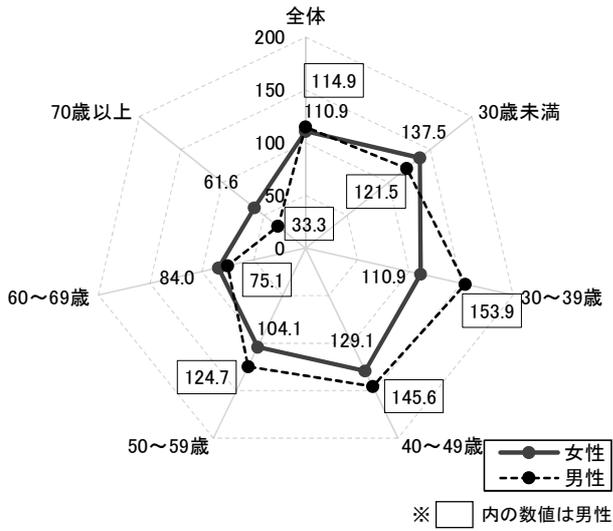
③短時間勤務やフレックスタイムなどの制度がなく、勤務時間に柔軟性がない



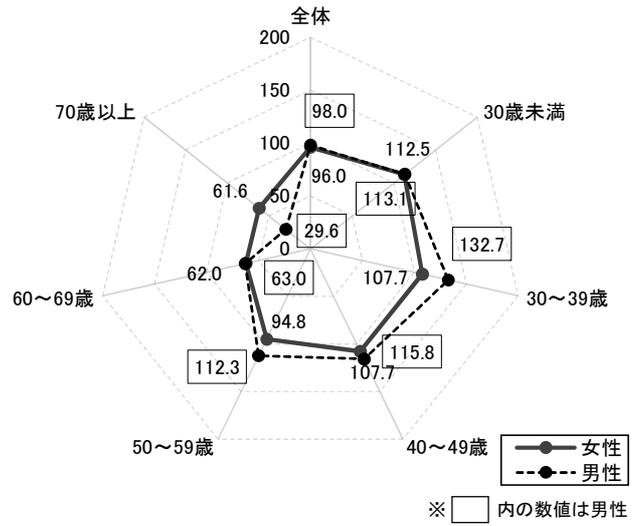
④収入がない



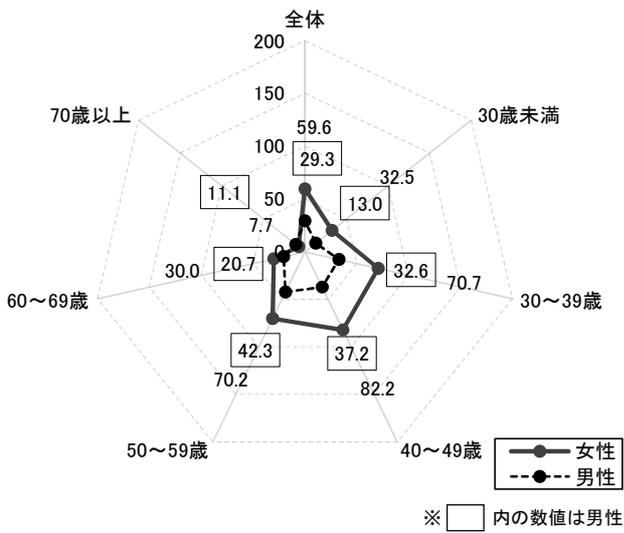
⑤不況・解雇、将来性が感じられない



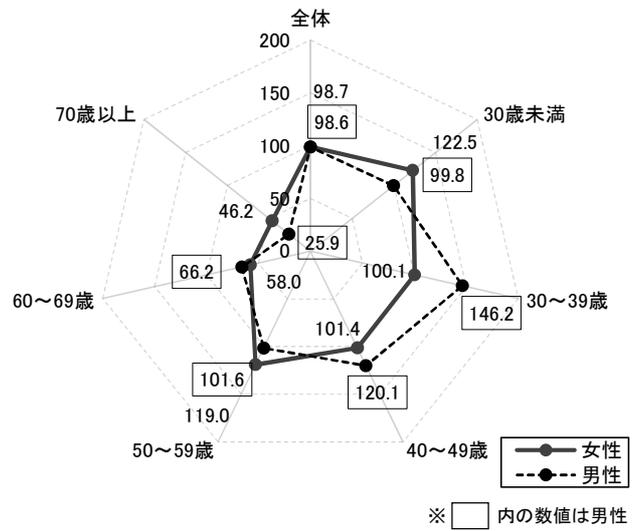
⑥仕事がおもしろくない



⑦子どもや高齢者の世話などがあって十分に働けない



⑧休みが十分とれない



性別・就業形態別 ストレス強度係数

		対象者数（人）	上司や部下、同僚との人間関係	労働時間が長い	短時間勤務やフレックスタイムなどの制度がなく、勤務時間に柔軟性がない	収入がない	不況・解雇、将来性が感じられない	仕事がおもしろくない	子どもや高齢者の世話などがあつても十分に働けない	休みが十分とれない
女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	96	180.1	152.1	120.9	82.5	119.0	115.8	65.8	146.9
	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	54	150.0	111.1	94.4	103.8	138.9	100.2	57.5	103.7
	パート、アルバイトの勤め人（短時間）	118	143.3	58.4	52.5	65.3	94.9	95.6	57.5	60.9
	自営業主・経営者（農林業を含む）	16	93.8	112.8	62.8	112.5	137.8	81.5	81.3	150.3
	自営業の手伝い、家族従業員	25	44.0	60.0	28.0	56.0	92.0	48.0	32.0	60.0
男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	177	163.7	139.7	104.9	78.1	124.8	114.0	35.1	112.2
	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	20	130.0	100.0	80.0	60.0	125.0	80.0	5.0	70.0
	パート、アルバイトの勤め人（短時間）	28	103.7	39.2	57.2	75.0	64.2	71.5	10.7	46.4
	自営業主・経営者（農林業を含む）	57	72.0	77.1	50.8	68.5	101.7	68.4	31.5	91.2
	自営業の手伝い、家族従業員	6	100.2	133.5	66.7	66.7	100.2	66.7	33.3	99.9

（単位：％）

問6で、現在回答者自身が「仕事をしている」と回答された方

問11 あなたの今の職場では、性別によって、対応や評価に差があると思いますか。

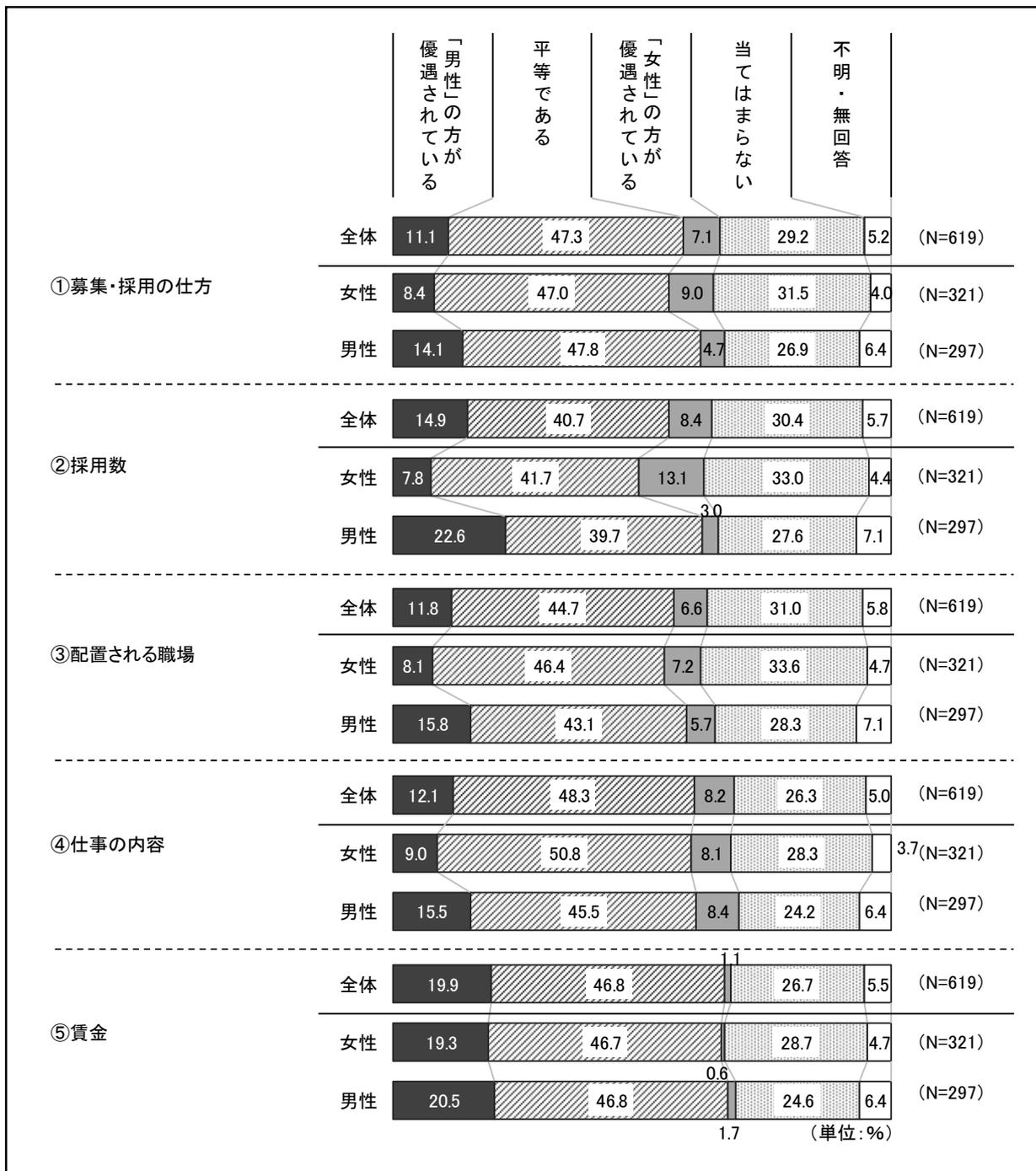
あなたの実感に近いものを選んで番号に○をつけてください。

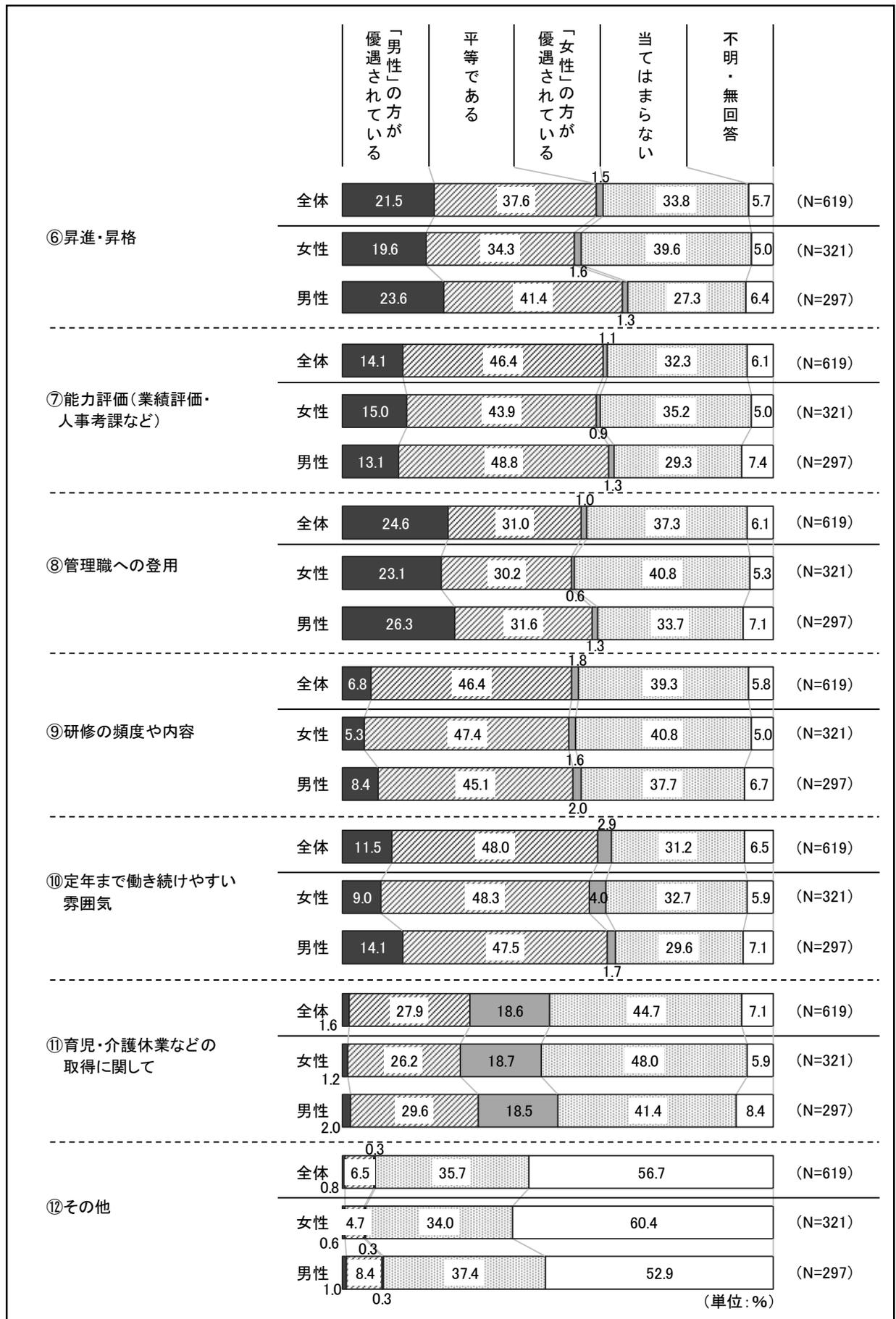
(①～⑫の項目ごとに○は1つずつ)

■『⑧管理職への登用』『⑥昇進・昇格』『⑤賃金』は全体で男性優遇感が高くなっている。

『⑪育児・介護休業などの取得に関して』は全体で女性優遇感が高くなっている。

全体、男性では、『⑪育児・介護休業などの取得に関して』以外のすべての項目で「女性」の方が優遇されている」より「男性」の方が優遇されている」が高くなっており、特に『⑧管理職への登用』では差が大きくなっています。一方、女性では、『①募集・採用の仕方』『②採用数』『⑪育児・介護休業などの取得に関して』については、「男性」の方が優遇されている」より「女性」の方が優遇されている」が高く、女性優遇感が高くなっています。





性別・就業形態別

【「男性」の方が優遇されている】の割合

	対象者数（人）	①募集・採用の仕方	②採用数	③配置される職場	④仕事の内容	⑤賃金	⑥昇進・昇格	⑦能力評価（業績評価・人事考課など）	⑧管理職への登用	⑨研修の頻度や内容	⑩定年まで働き続けやすい雰囲気	⑪育児・介護休業などの取得に関して	
女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	96	11.5	9.4	13.5	12.5	29.2	35.4	27.1	39.6	8.3	17.7	1.0
	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	54	13.0	13.0	11.1	14.8	29.6	27.8	20.4	27.8	9.3	13.0	1.9
	パート、アルバイトの勤め人（短時間）	118	5.1	5.1	5.1	6.8	11.9	10.2	8.5	16.9	2.5	4.2	1.7
	自営業主・経営者（農林業を含む）	16	6.3	6.3	0.0	0.0	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自営業の手伝い、家族従業員	25	8.0	8.0	4.0	4.0	8.0	4.0	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0
男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	177	20.3	32.2	22.6	20.9	26.0	31.6	16.9	37.3	11.9	19.2	2.3
	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	20	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	20.0	10.0	15.0	5.0	0.0	5.0
	パート、アルバイトの勤め人（短時間）	28	7.1	14.3	7.1	10.7	14.3	14.3	7.1	17.9	0.0	17.9	0.0
	自営業主・経営者（農林業を含む）	57	3.5	5.3	5.3	7.0	15.8	7.0	7.0	5.3	5.3	3.5	1.8
	自営業の手伝い、家族従業員	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位：%)

問 12 これまでに離職もしくは転職をしたことがありますか。(○は1つ)

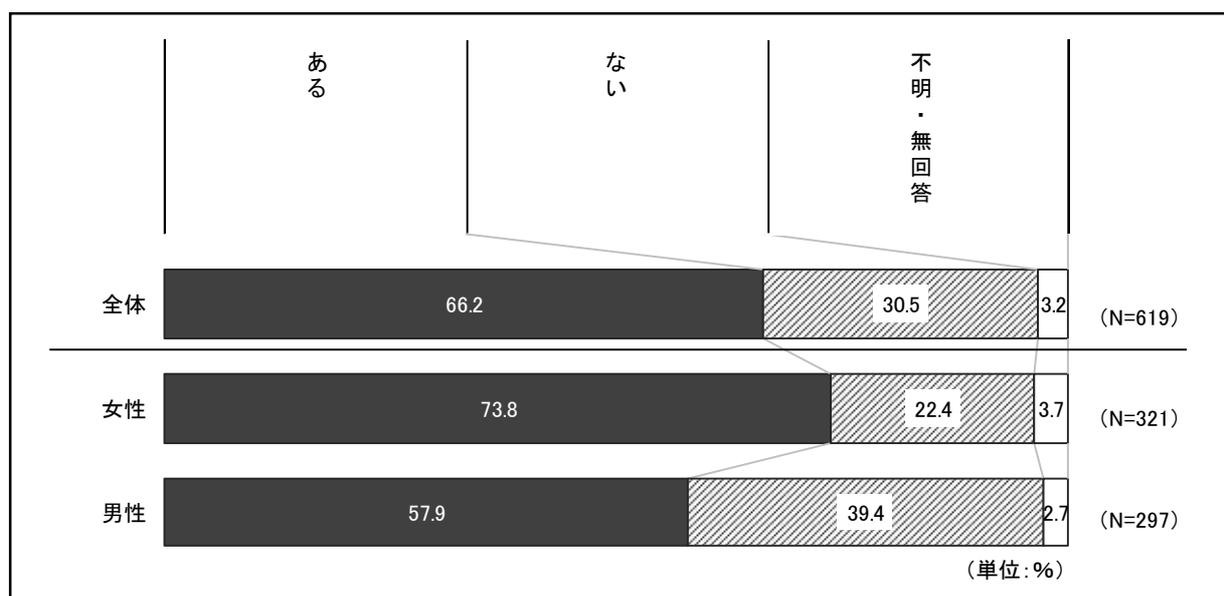
■女性の方が離職・転職経験のある人が多い。

非正規雇用者の方が離職・転職経験のある人が多い。

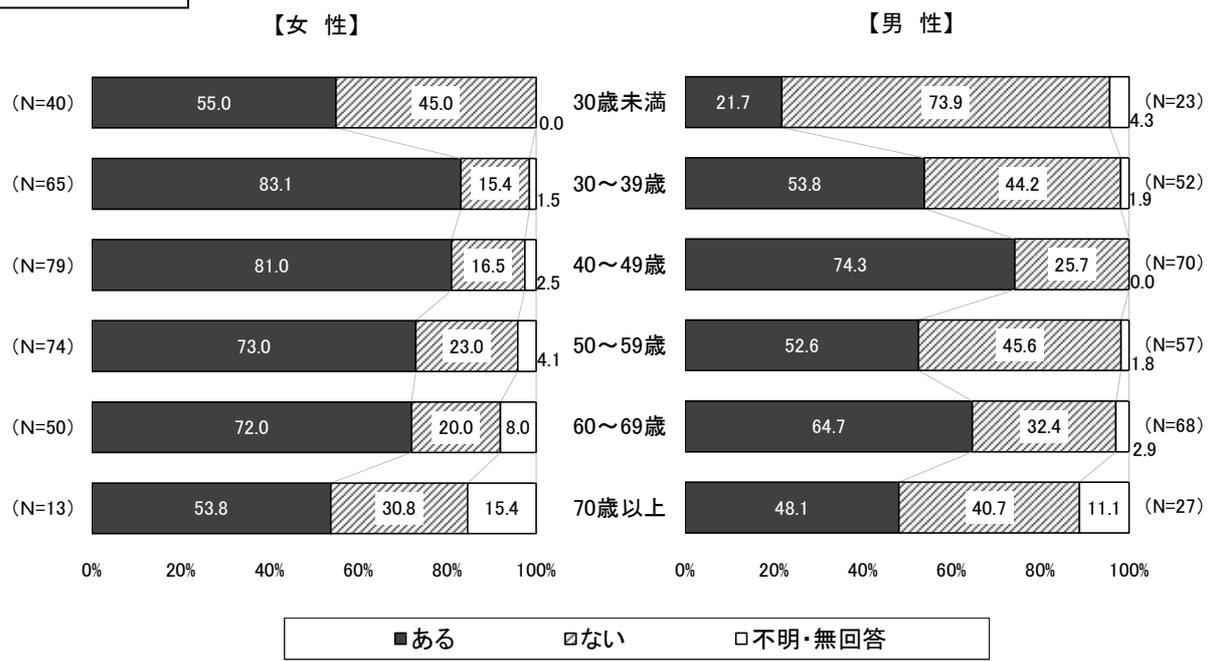
全体では、「ある」が66.2%となっており、女性では73.8%、男性では57.9%と女性の方が高くなっています。

性別・年齢別にみると、「ある」が高いのは、女性では30～39歳、男性では40～49歳となっています。

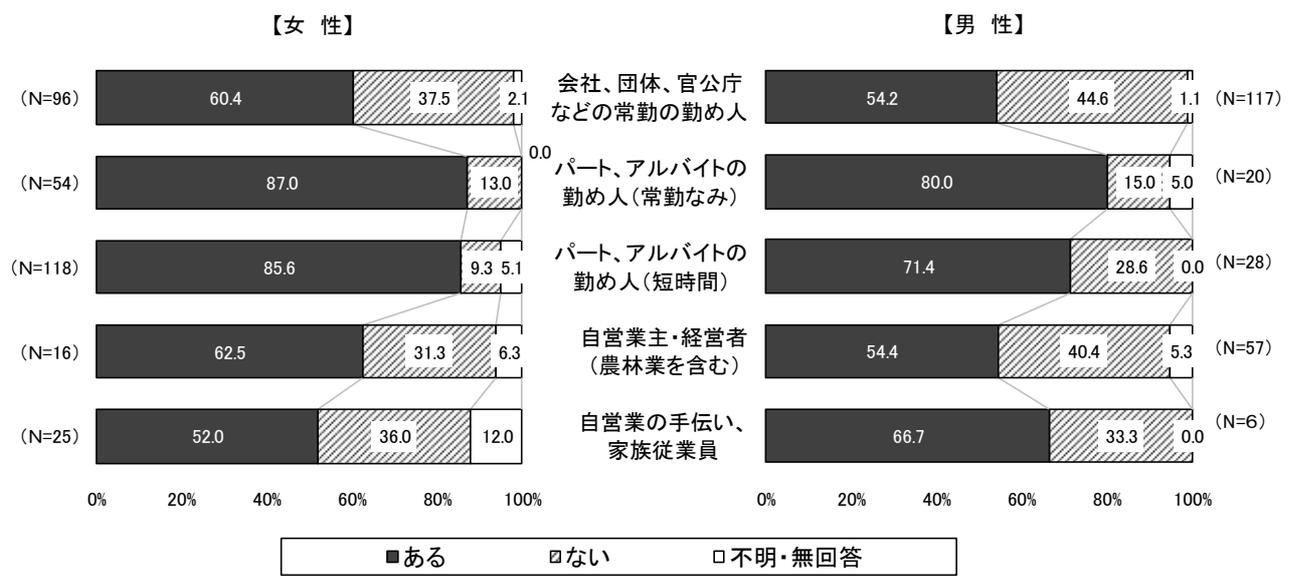
性別・就業形態別にみると、「ある」が高いのは男女ともに「パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）」「パート、アルバイトの勤め人（短時間）」と、非正規雇用者で高くなっています。



性別・年齢別



性別・就業形態別



問 12 で「ある」と回答された方

問 12-1 離職・転職をしたのは、どのような理由からですか。

(あてはまるもの3つまでに○)

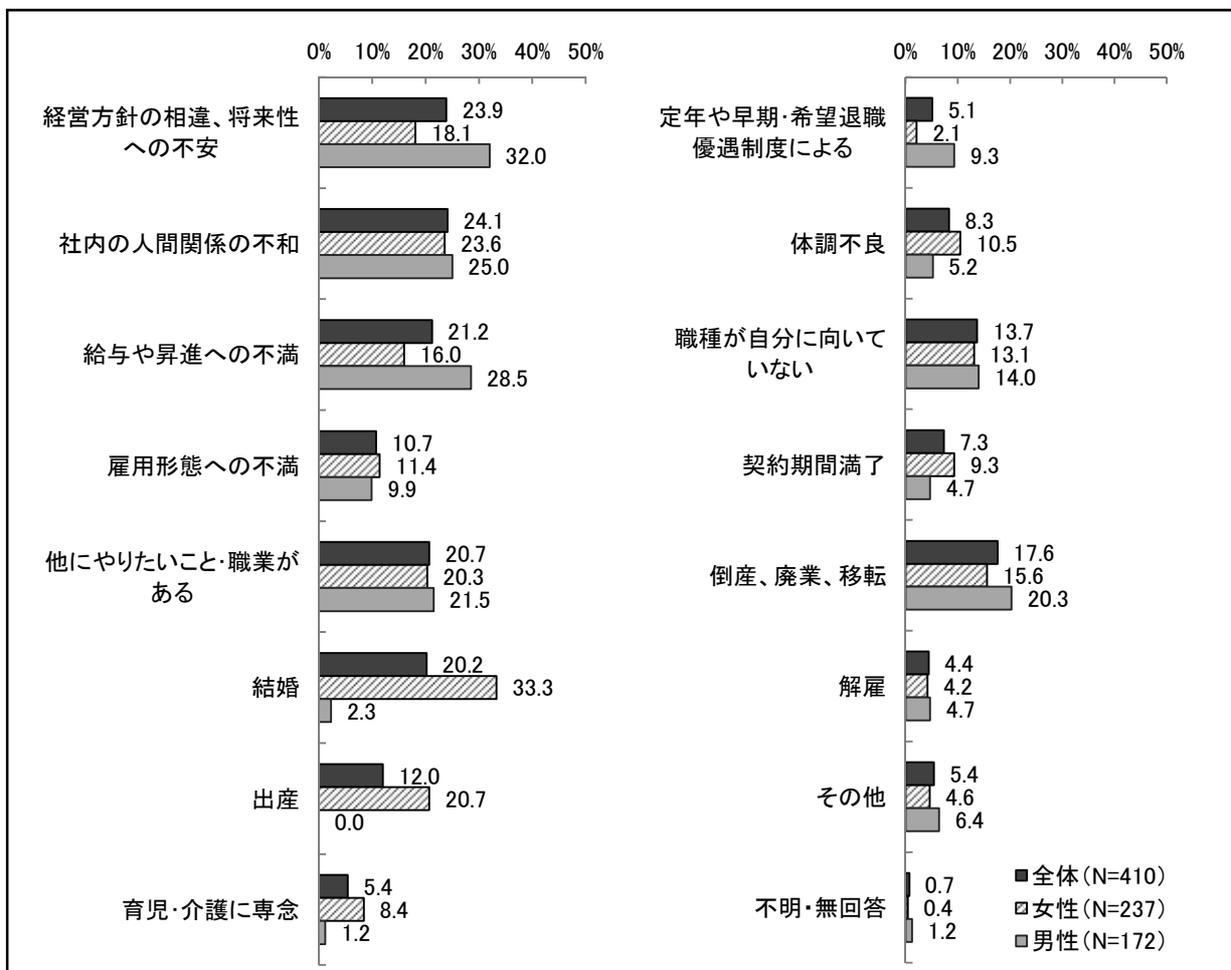
■女性の離職・転職理由は「結婚」「社内の人間関係の不和」「出産」となっている。

男性の離職・転職理由は「経営方針の相違、将来性への不安」「給与や昇進への不満」となっている。

全体では、「社内の人間関係の不和」に次いで「経営方針の相違、将来性への不安」が高くなっていますが、男女で傾向が異なり、女性では「結婚」に次いで「社内の人間関係の不和」、男性では「経営方針の相違、将来性への不安」に次いで「給与や昇進への不満」となっています。

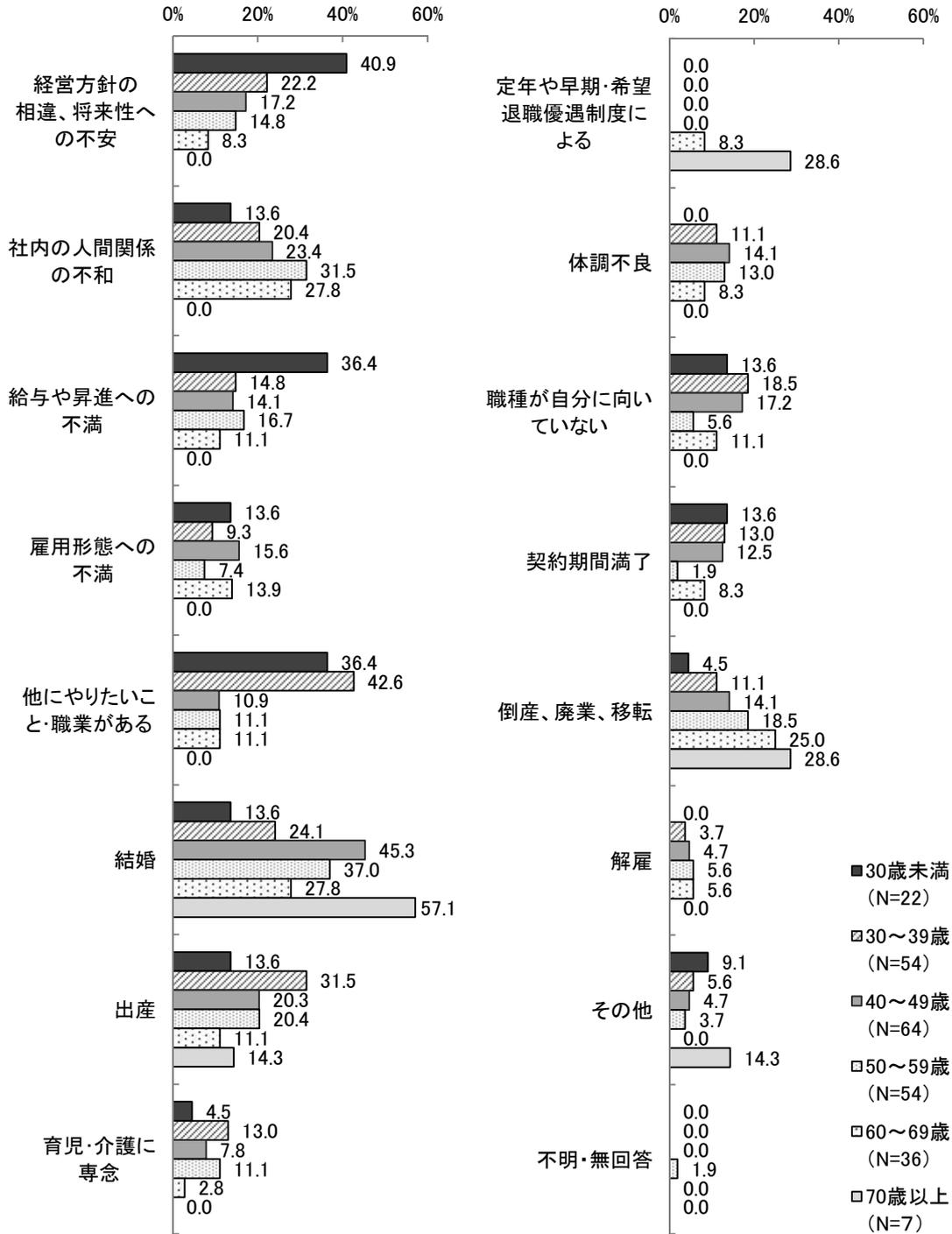
性別・年齢別にみると、女性の40歳以上では「結婚」が高くなっています。また、男性の30歳以上60歳未満では「経営方針の相違、将来性への不安」「給与や昇進への不満」が上位2位となっていますが、60歳以上では「倒産、廃業、移転」に次いで「定年や早期・希望退職優遇制度による」が高くなっています。

結婚の有無別にみると、女性の未婚（結婚していない）「他にやりたいこと・職業がある」「経営方針の相違、将来性への不安」が上位2位であるのに対し、既婚（結婚している（事実婚を含む））では「結婚」「出産」が上位2位となっています。

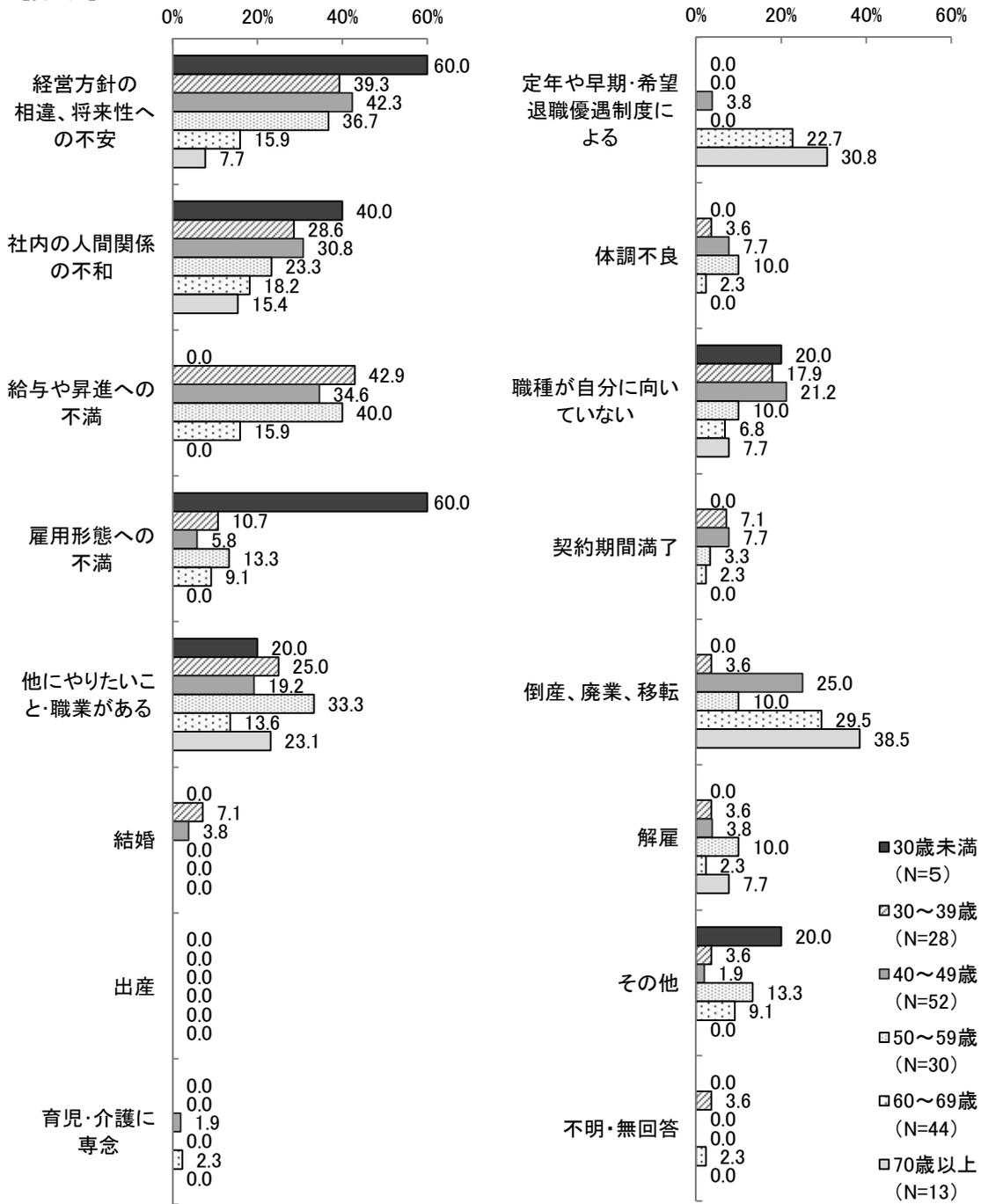


性別・年齢別

【女性】

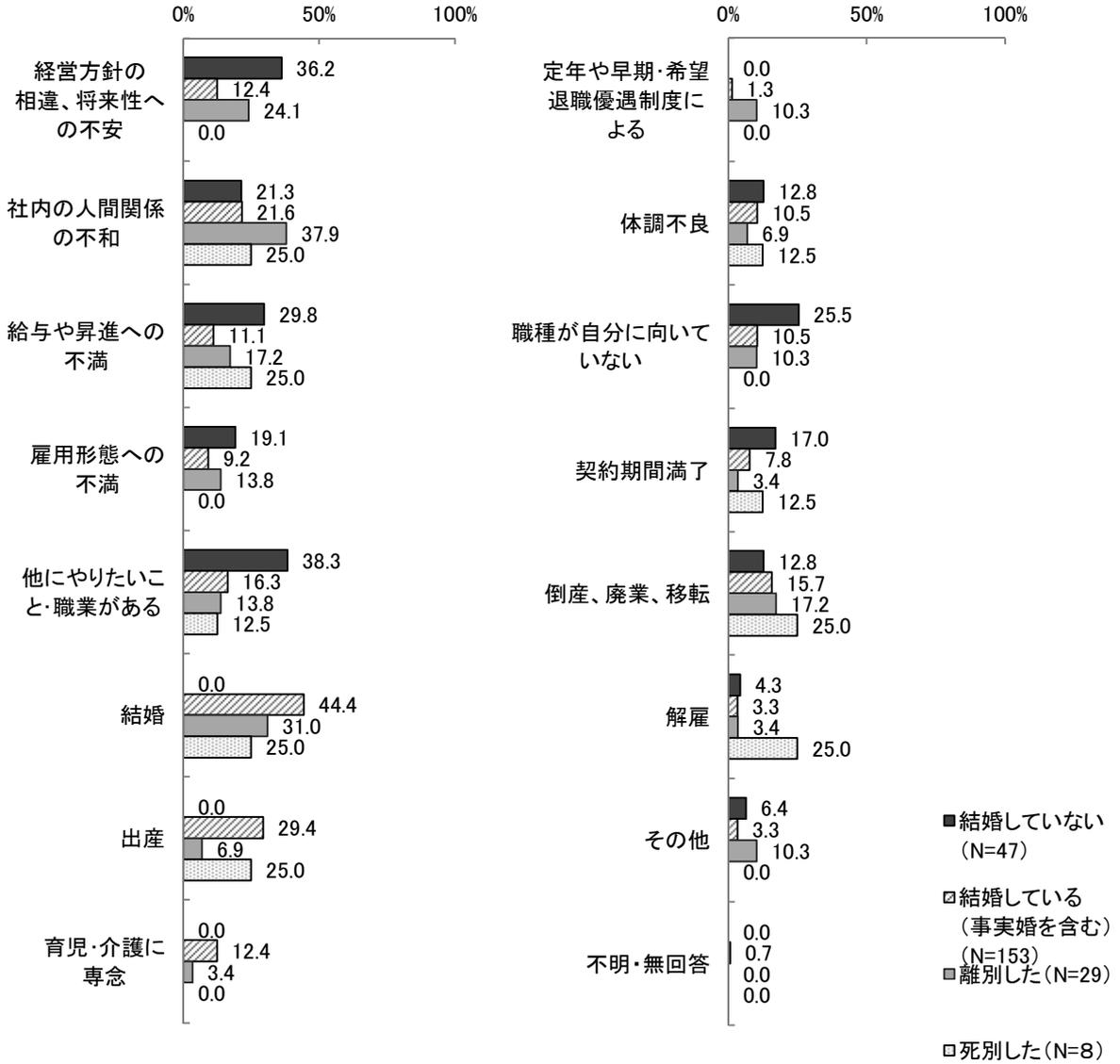


【男性】

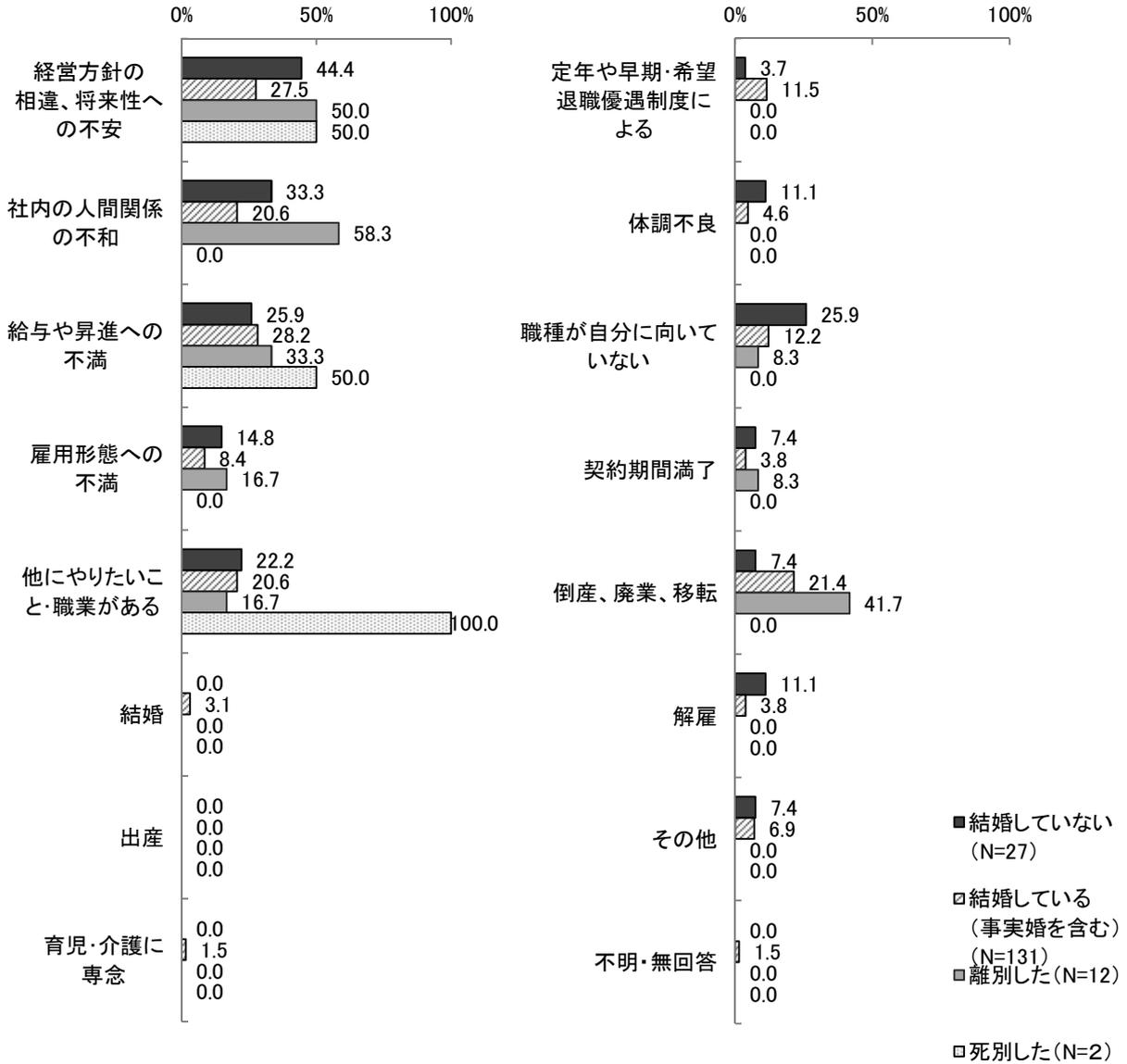


性別・結婚の有無別(問3)

【女性】



【男性】



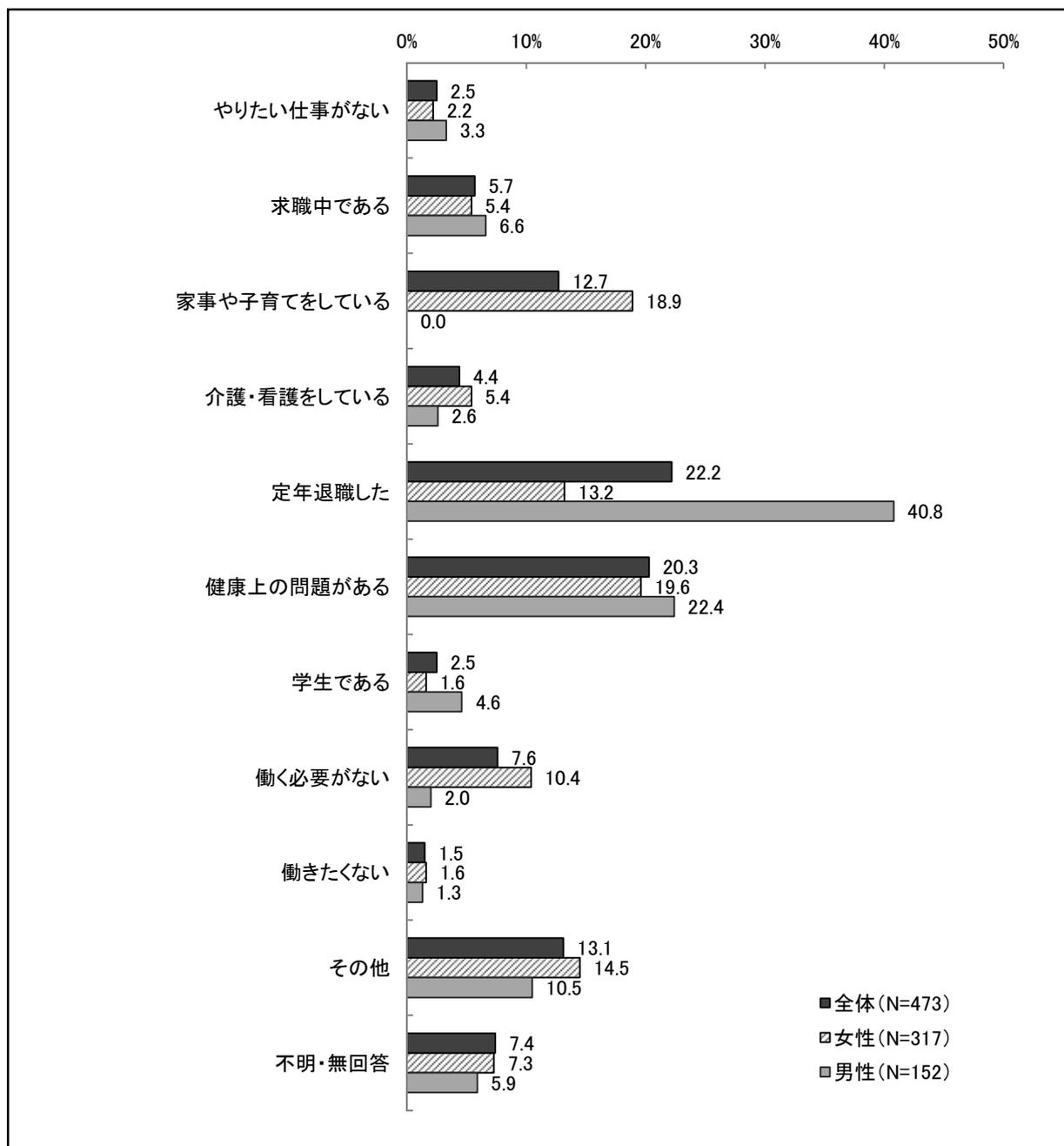
問6で、現在あなた自身が「仕事はしていない」と回答された方

問13 あなたが仕事をしていないのはどうしてですか。(〇は1つ)

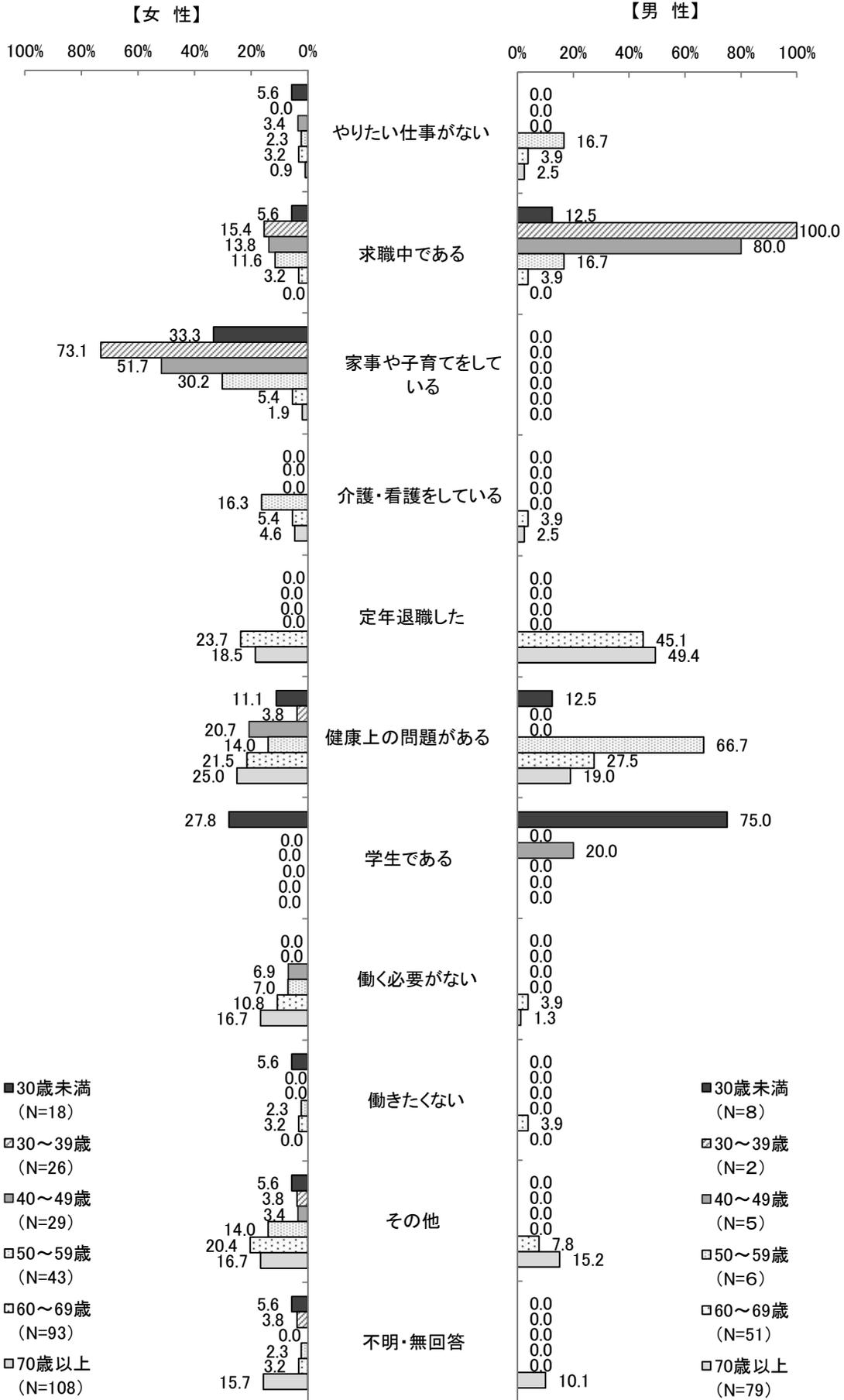
■男性では「定年退職した」が40.8%、「健康上の問題がある」が22.4%となっている。

「家事や子育てをしている」との理由は女性のみが回答している。

全体では、「定年退職した」に次いで「健康上の問題がある」が高くなっています。「定年退職した」では女性に比べ男性の方が、「家事や子育てをしている」では男性に比べ女性の方がそれぞれ特に高くなっており、「家事や子育てをしている」について男性の回答はありませんでした。



性別・年齢別



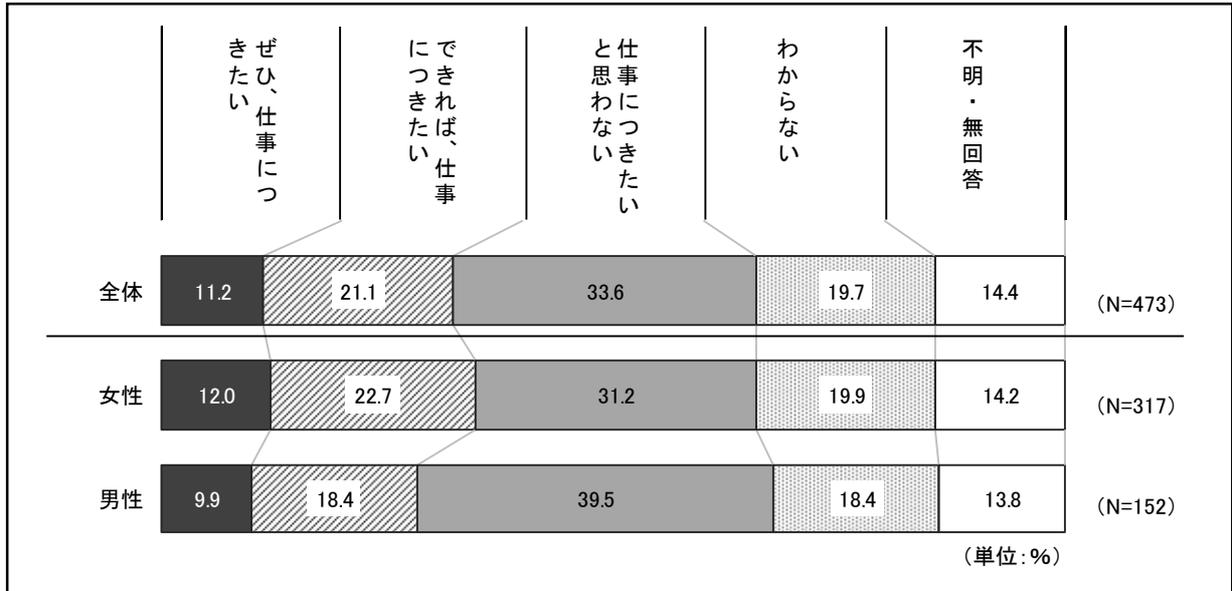
問6で、現在あなた自身が「仕事はしていない」と回答された方

問14 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。(○は1つ)

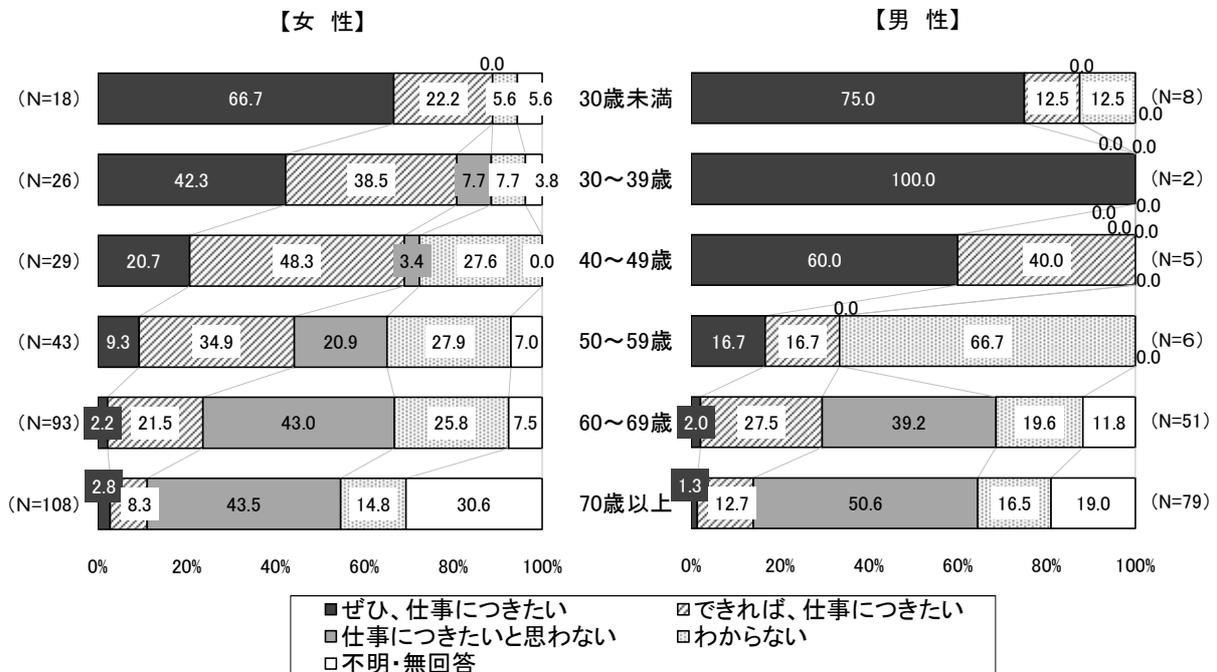
■女性の就労意向が男性に比べて高い。

全体では、[仕事につきたい]（「ぜひ、仕事につきたい」と「できれば、仕事につきたい」の合計）は32.3%となっており、女性は34.7%、男性は28.3%と女性の方が高くなっています。

性別・年齢別にみると、男女ともに年齢が若い方が[仕事につきたい]が高い傾向にあり、特に男性の50歳未満では「ぜひ、仕事につきたい」が6割以上と就労意向が高くなっています。



性別・年齢別



問 14 で「ぜひ、仕事につきたい」もしくは「できれば仕事につきたい」と回答された方

問 14-1 あなたは、今後、仕事につく上で何か困ったことや不安がありますか。

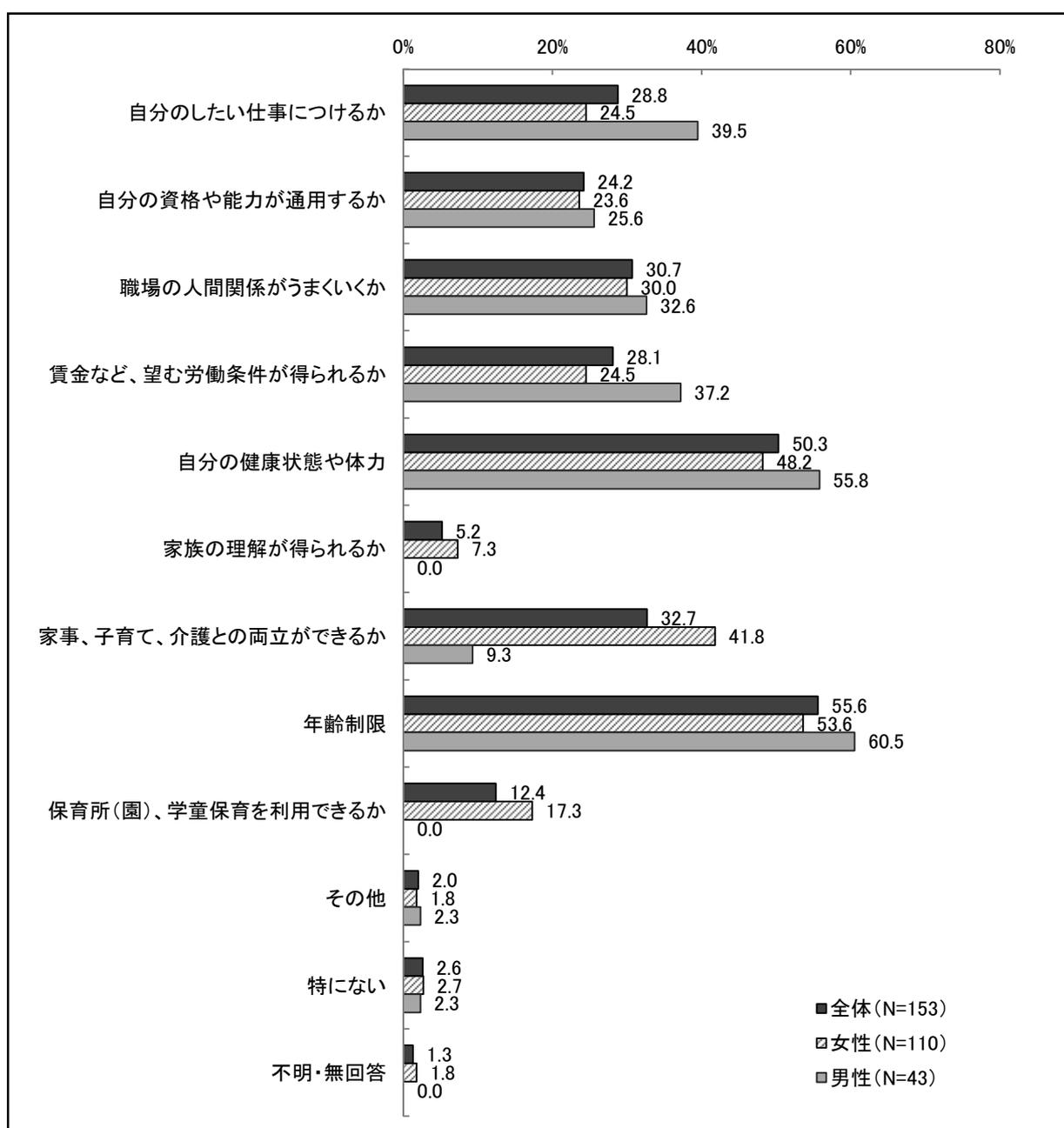
(〇はいくつでも)

■今後、仕事につく上で「年齢制限」「自分の健康状態や体力」に不安を感じている人が多い。

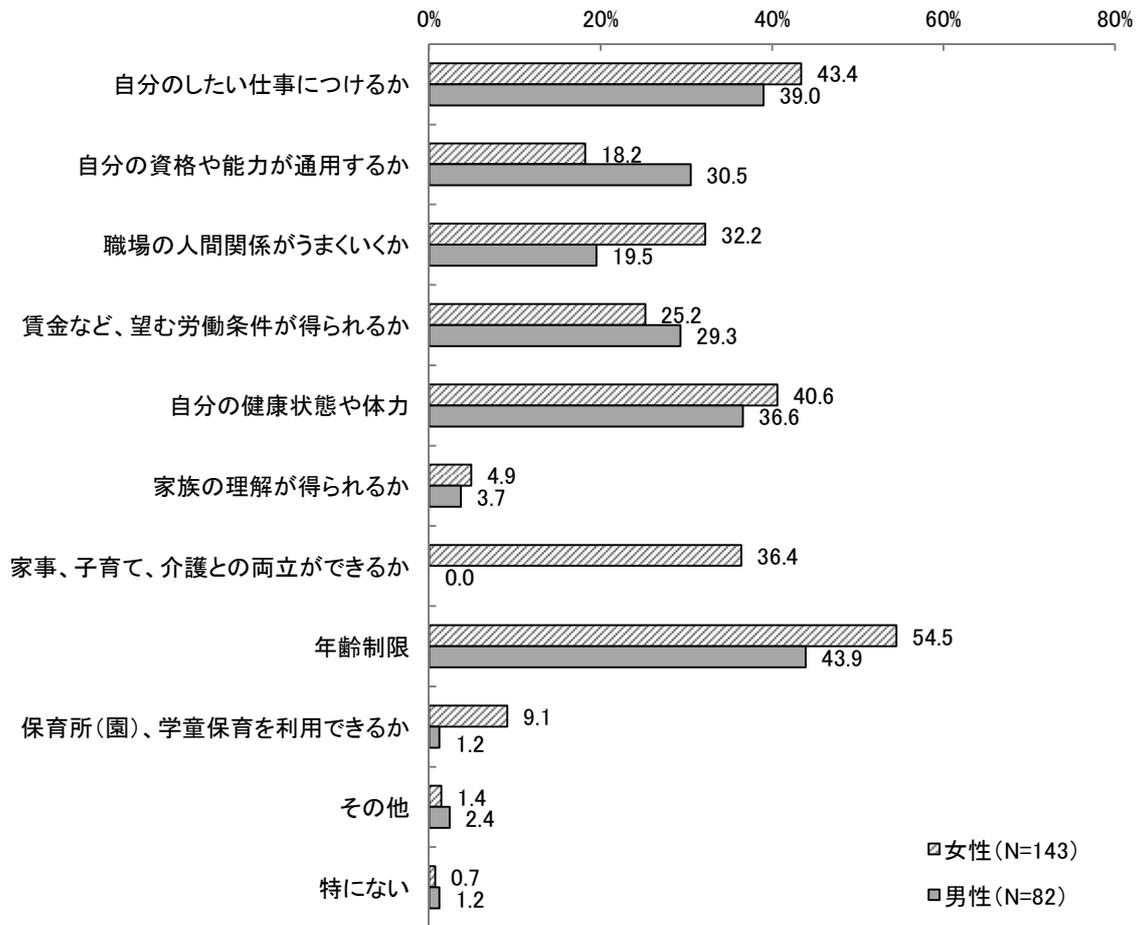
「家事、子育て、介護との両立ができるか」という不安は男女ともに前回調査より増加している。

全体、男女ともに「年齢制限」に次いで「自分の健康状態や体力」が高くなっています。「自分のしたい仕事につけるか」では女性に比べ男性の方が、また「家事、子育て、介護との両立ができるか」では男性に比べ女性の方がそれぞれ特に高くなっています。

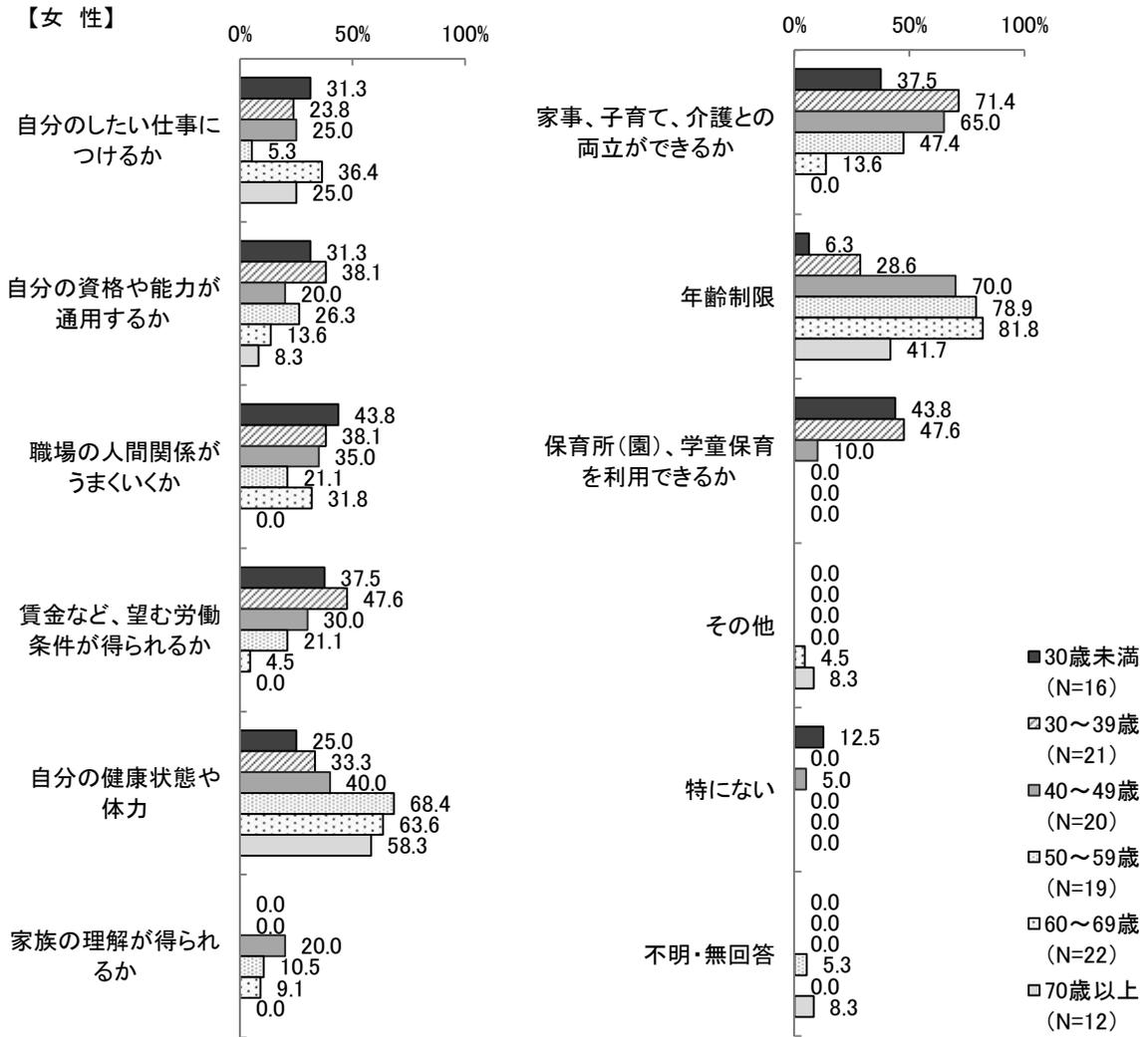
前回調査をみると、男女ともに上位は「年齢制限」ですが、前回調査では第2位は「自分のしたい仕事につけるか」となっており、今回調査では年齢や健康に関する不安要素がより高くなっています。また、「家事、子育て、介護との両立ができるか」は男女ともに今回調査の方が、割合が高くなっています。



前回調査(平成 21 年度)



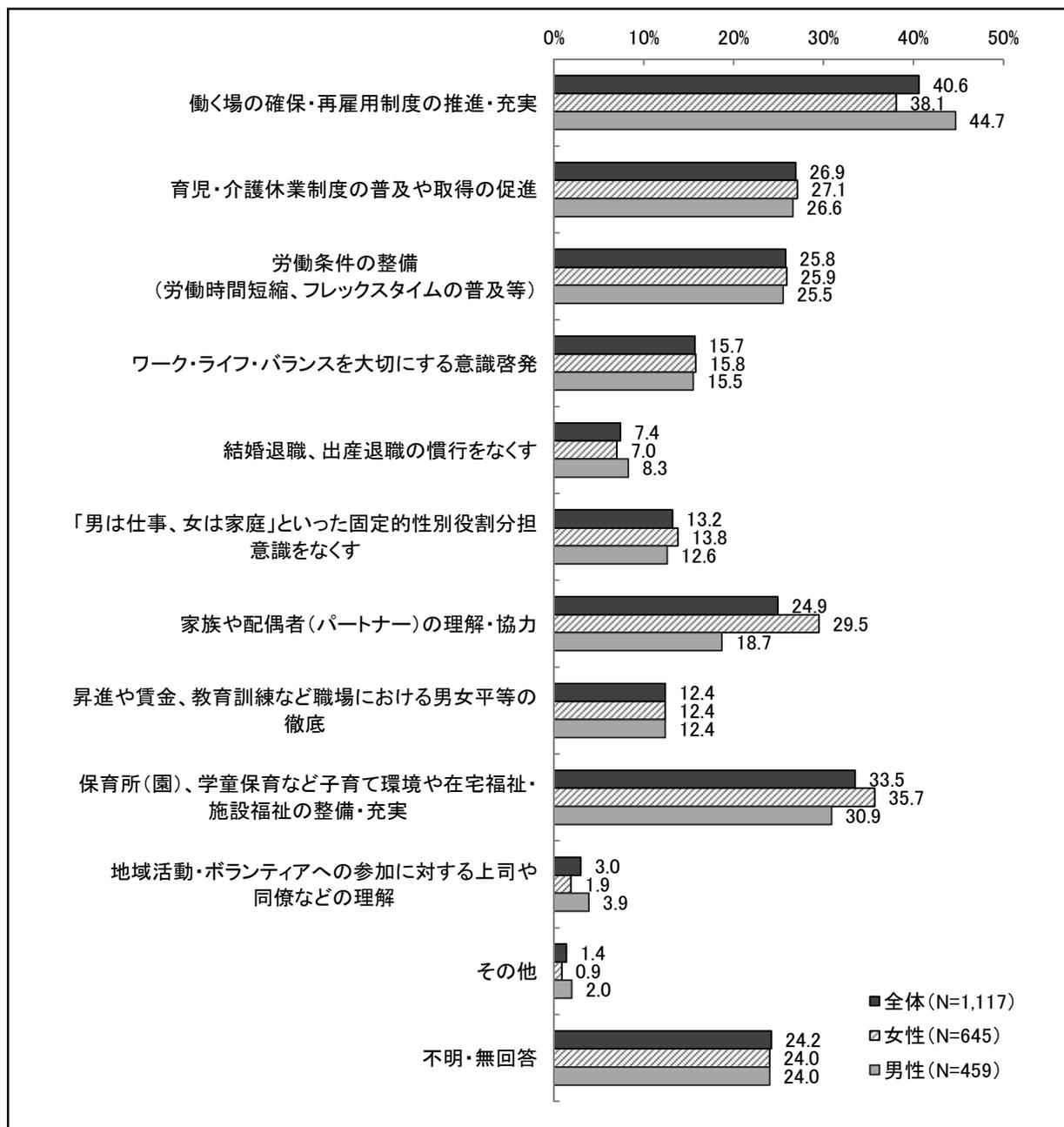
女性・年齢別



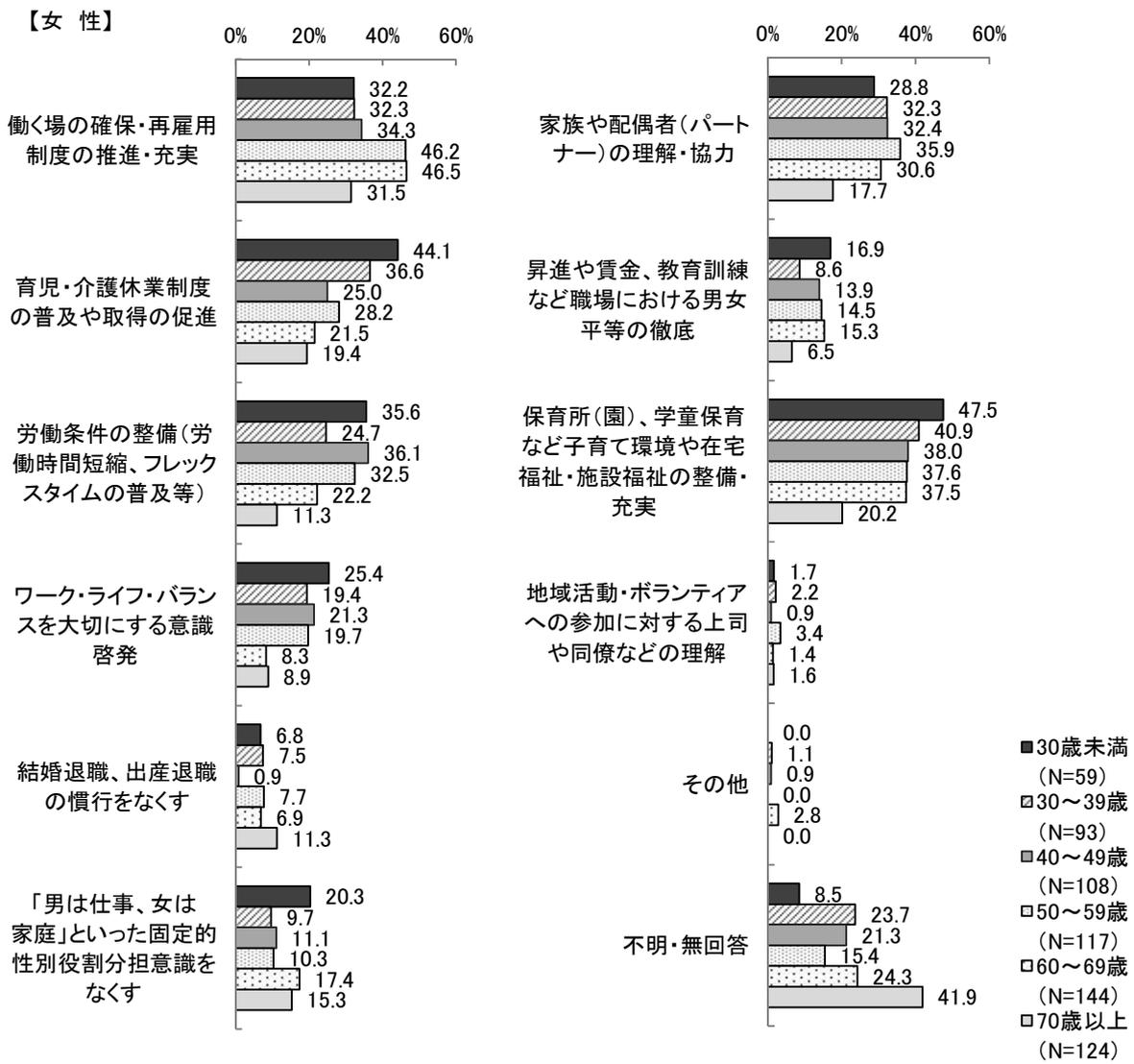
問 15 今後、男女がともに仕事と生活の調和を図るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)

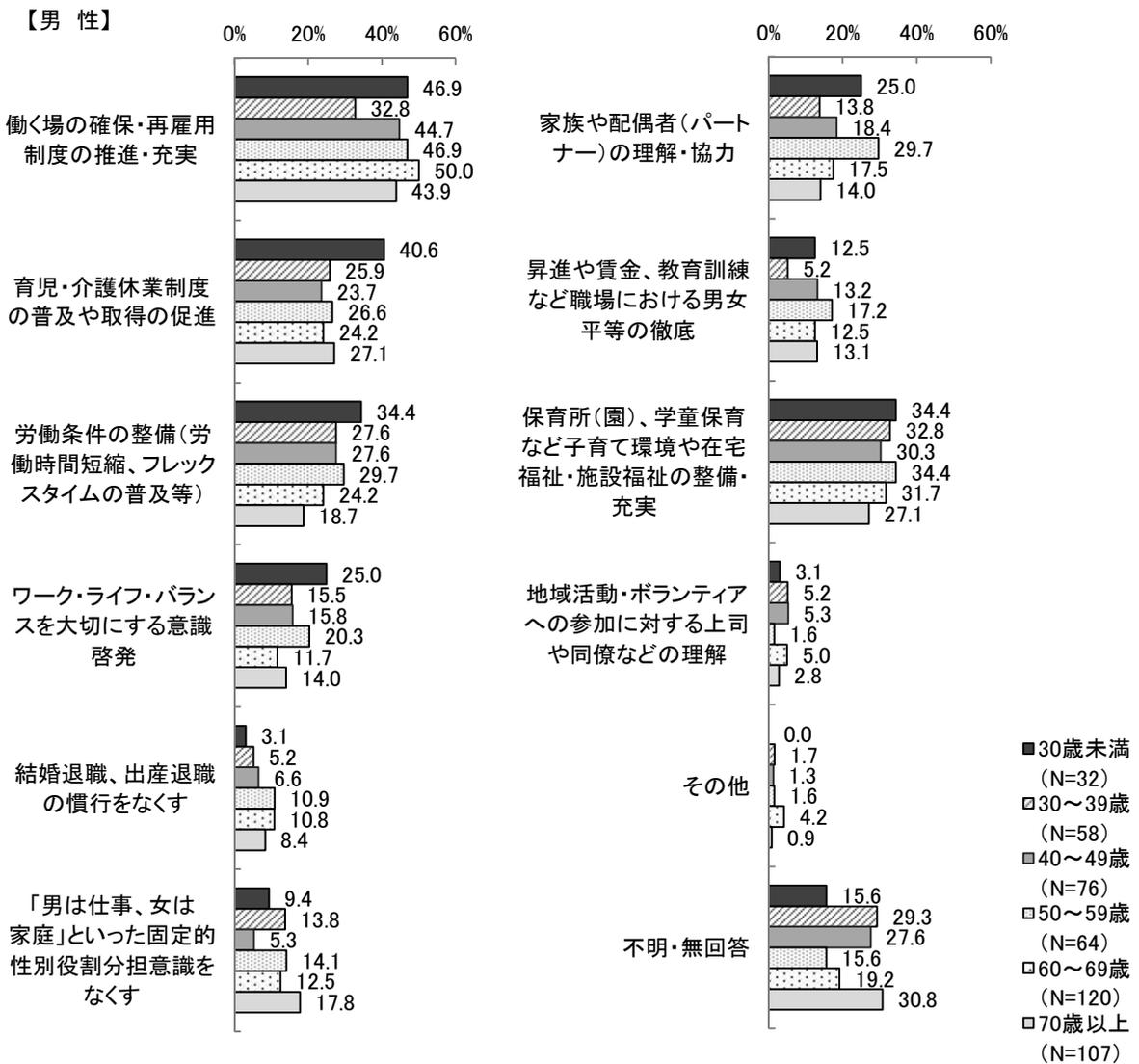
■仕事と生活の調和を図るため、「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」「保育所(園)、学童保育など子育て環境や在宅福祉・施設福祉の整備・充実」が特に求められている。

全体、男女ともに「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」次いで「保育所(園)、学童保育など子育て環境や在宅福祉・施設福祉の整備・充実」が高くなっています。また、「家族や配偶者(パートナー)の理解・協力」では男性より女性で、「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」では女性より男性で高くなっており、他の項目より差がやや大きくなっています。



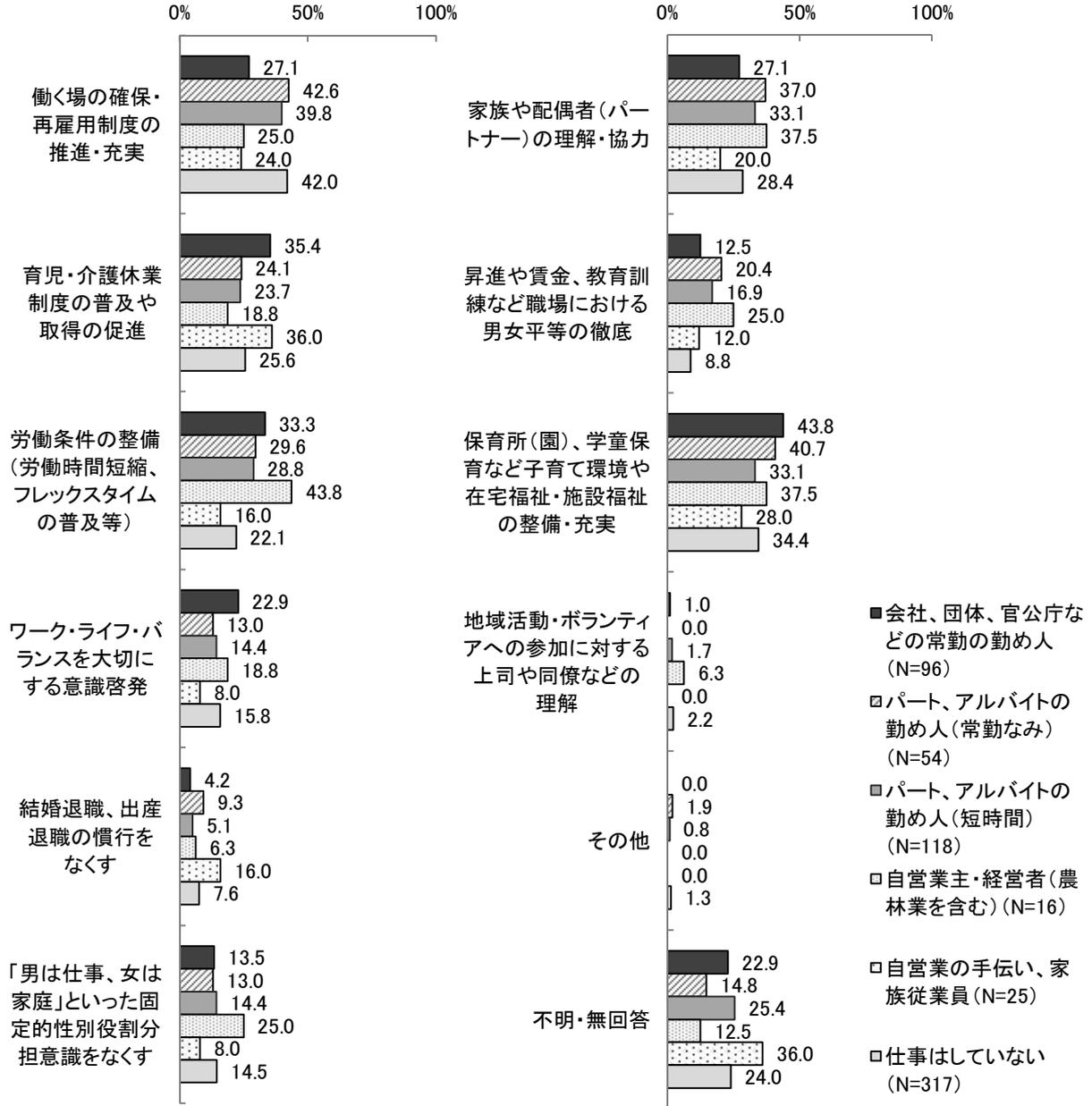
性別・年齢別



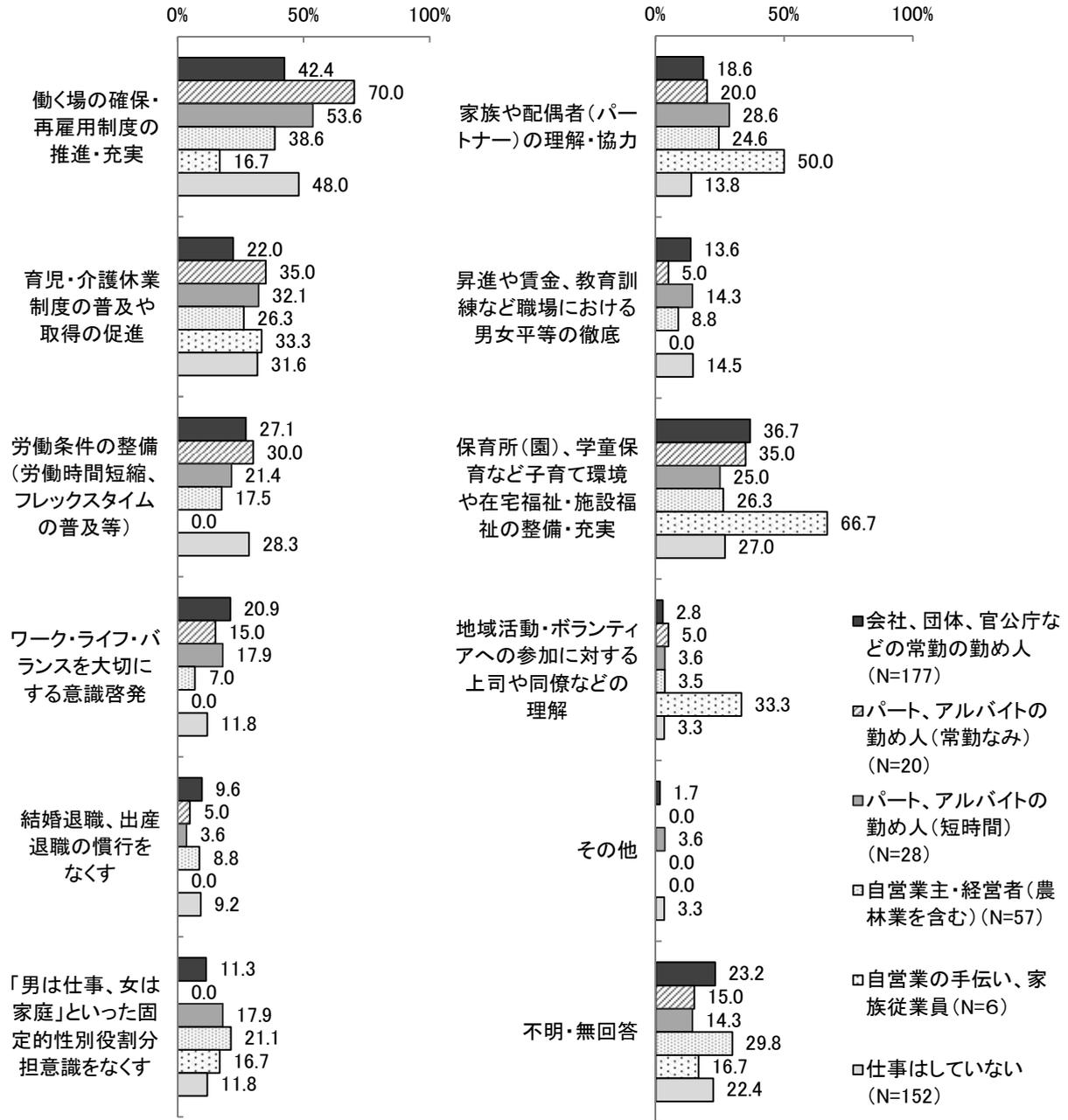


性別・就業形態別

【女性】



【男性】



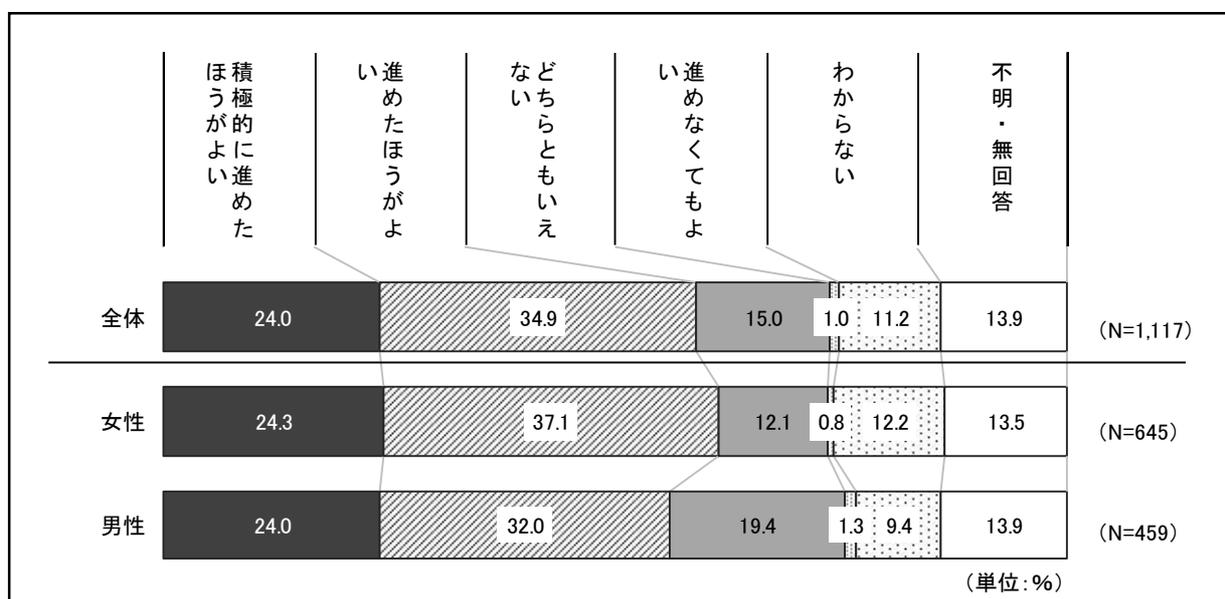
問 16 雇用において性別、価値観、ライフスタイル、セクシュアル・マイノリティ、障害等の多様性を受け入れ、広く人材を活用することで生産性を高めようとする考え方をダイバーシティといいます。あなたはこの考え方を推進することをどう思いますか。
(○は1つ)

■全体では「進めたほうがよい」が約6割となっている。

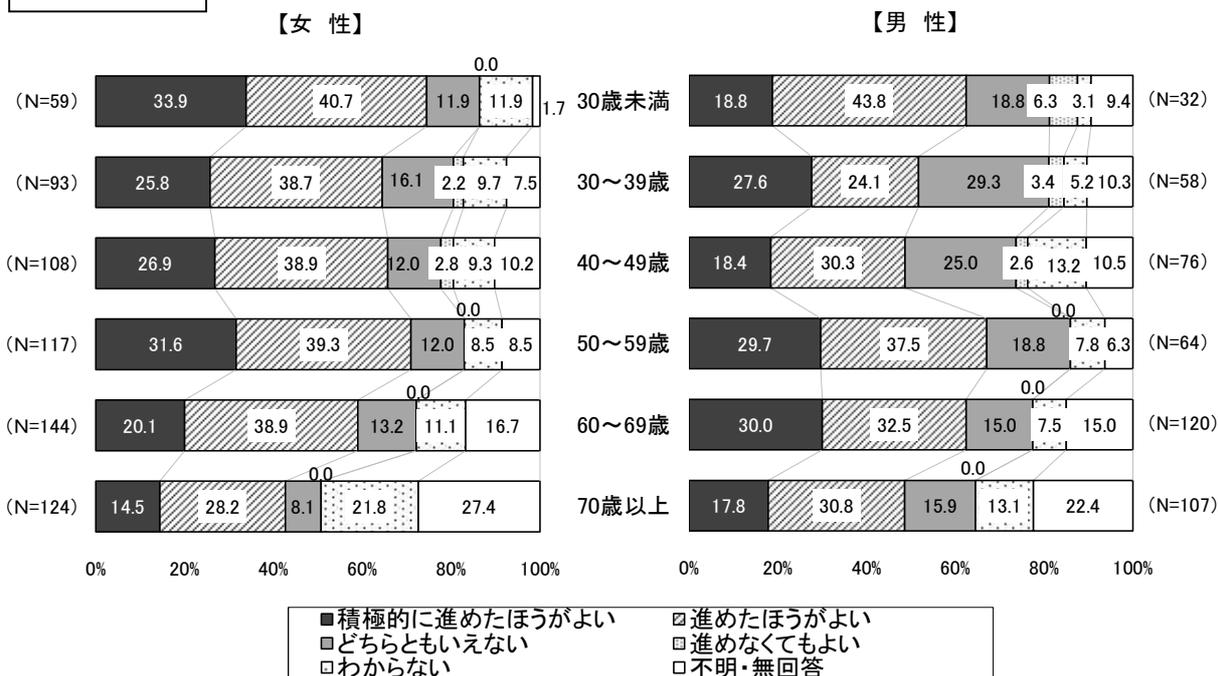
全体では「わからない」が11.2%、「不明・無回答」が13.9%と、ダイバーシティの推進について4分の1の人の考え方が示されていない。

全体では、「進めたほうがよい」(「積極的に進めたほうがよい」と「進めたほうがよい」の合計)は58.9%となっており、女性は61.4%、男性は56.0%となっています。また、「わからない」は全体では11.2%となっています。

性別・年齢別にみると、「進めなくてもよい」割合は、50歳以上では0.0%となっていますが、「わからない」「不明・無回答」の合計は年代が上がるほど高くなっています。



性別・年齢別



2. 日常生活や子育てについて

問17 あなたは、次の①～⑤の項目についてどのように思いますか。
 感じたままをお答えください。(①～⑤の項目ごとに〇は1つずつ)

■子育てや家庭の経済面に関する固定的な性別役割分担意識は強い。

育児や介護、管理職については「どちらともいえないと思う」の割合が高い。

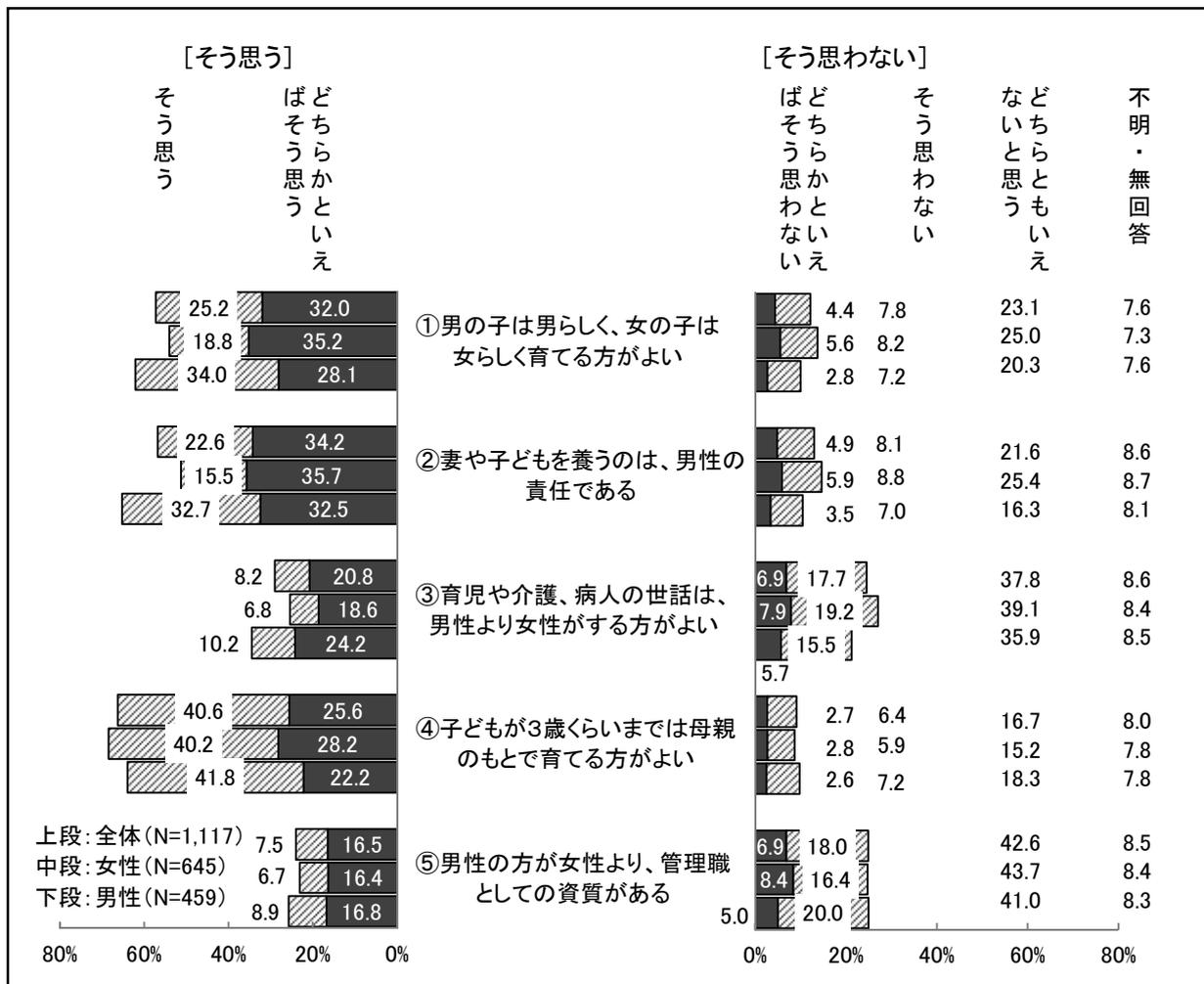
全体、男女ともに『①男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい』『②妻や子どもを養うのは、男性の責任である』『④子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい』では「[そう思う]」の方が「[そう思わない]」より高くなっています。また、『⑤男性の方が女性より、管理職としての資質がある』については、男女ともに「どちらともいえないと思う」が高くなっています。

性別・年齢別の「[そう思う]」の状況みると、『①男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい』『③育児や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい』『④子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい』では男女ともに50～59歳の割合が高くなっています。また、『④子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい』では30歳未満で男性に比べ女性の方が41.6ポイント高くなっています。

選択肢は以下のように分類しています。

[そう思う] … 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

[そう思わない] … 「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計

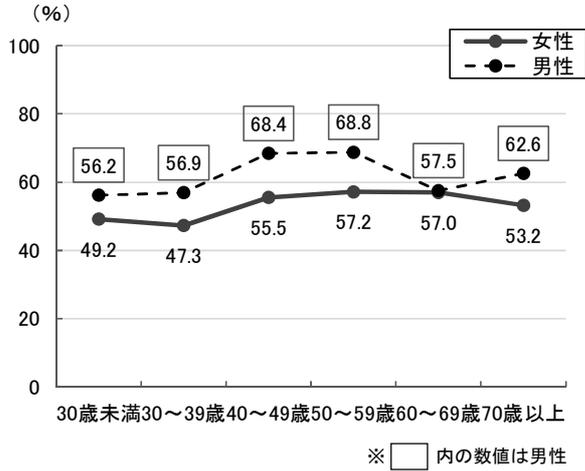


性別・年齢別

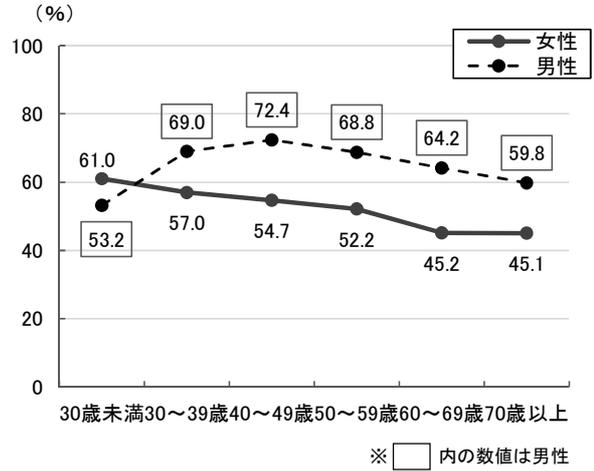
◆ [そう思う]

(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)

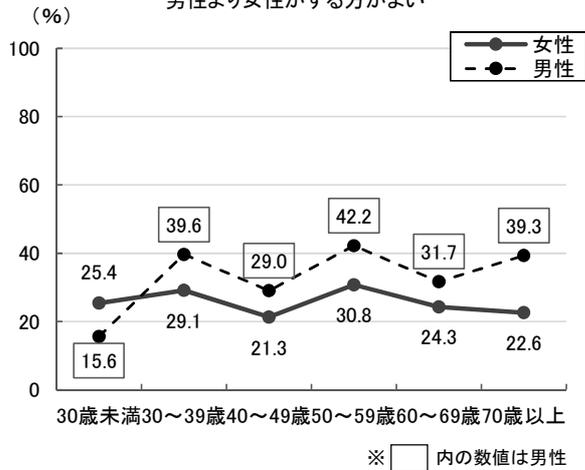
①男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい



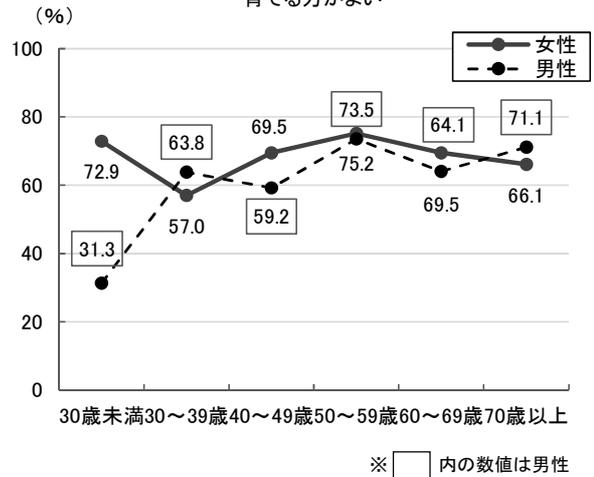
②妻や子どもを養うのは、男性の責任である



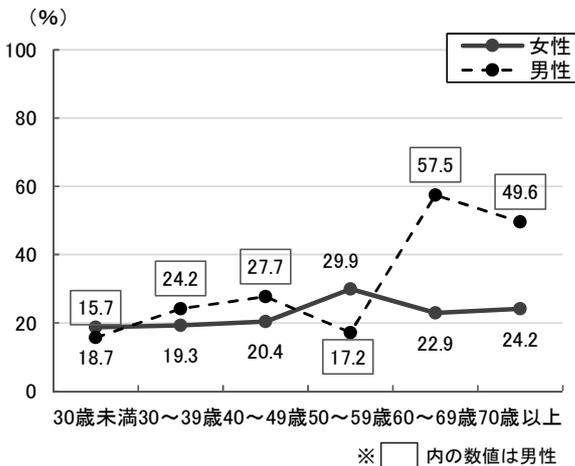
③育児や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい



④子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい



⑤男性の方が女性より、管理職としての資質がある



問 18 あなたは、普段の平日をどのように過ごしていますか。

①～⑥の各項目に使うおおよその時間をご記入ください。

■「家事・育児・介護など」は女性の方が長く、「仕事・通勤あるいは学業・通学」は男性の方が長く、時間差が大きい。

「家事・育児・介護など」は女性で約5時間、男性で2時間となっており、女性の30歳以上50歳未満で6時間以上と特に長い。

全体で過ごしている時間の長さをみると、「③仕事・通勤あるいは学業・通学」「①睡眠」「⑤余暇、自由時間」の順となっています。「④家事・育児・介護など」以外のすべての項目で女性より男性で時間が長くなっています。また、男女で時間に差があるものをみると、「④家事・育児・介護など」では女性の方が3時間16分長く、「③仕事・通勤あるいは学業・通学」では男性の方が2時間19分長くなっています。

前回調査と今回調査で傾向に変化はありませんが、「③仕事・通勤あるいは学業・通学」「④家事・育児・介護など」は男女ともに、やや短くなっています。

性別・年齢別にみると、「③仕事・通勤あるいは学業・通学」では女性は30歳未満が最も長く年代が上がるほど短くなっており、男性では30～39歳が最も長く40歳以降は年代が上がるほど短くなっています。一方、「④家事・育児・介護など」は、男性ではすべての年代で1時間から2時間程度であるのに対し、女性では4時間から6時間程度と長く、特に女性の30歳以上50歳未満で6時間以上と長くなっています。

	全 体	女 性	男 性
① 睡眠	7時間5分	6時間58分	7時間16分
② 食事、入浴など	2時間34分	2時間6分	2時間17分
③ 仕事・通勤あるいは学業・通学	8時間3分	7時間1分	9時間20分
④ 家事・育児・介護など	4時間4分	5時間9分	1時間53分
⑤ 余暇、自由時間	5時間7分	5時間15分	5時間50分
⑥ その他	4時間5分	3時間49分	4時間36分

※この項目の数字は、項目ごとに回答者1人ひとりの時間平均値を出したため、合計すると24時間を超えていることを考慮する必要がある。

前回調査(平成21年度)

	女 性	男 性
① 睡眠	6時間30分	6時間48分
② 食事、入浴など	2時間12分	1時間54分
③ 仕事・通勤あるいは学業・通学	7時間54分	9時間30分
④ 家事・育児・介護など	5時間24分	2時間12分
⑤ 余暇、自由時間	4時間48分	6時間0分
⑥ その他	3時間36分	4時間30分

性別・年齢別

		対象者数 (人)	睡眠	食事、 入浴など	学 仕事 業 事・ ・通 通 学 勤 ある いは	家 事 事・ ・育 児・ 介 護	余 暇、 自 由 時 間	そ の 他
女 性	30歳未満	59	6時間47分	2時間21分	8時間53分	4時間45分	4時間59分	4時間23分
	30～39歳	93	7時間12分	2時間3分	7時間25分	6時間15分	3時間9分	3時間23分
	40～49歳	108	6時間25分	1時間32分	7時間19分	6時間12分	3時間47分	3時間25分
	50～59歳	117	6時間41分	2時間1分	7時間2分	5時間7分	4時間46分	4時間3分
	60～69歳	144	6時間56分	2時間26分	6時間12分	4時間36分	6時間18分	3時間37分
	70歳以上	124	7時間7分	2時間17分	5時間8分	4時間16分	7時間0分	3時間58分
男 性	30歳未満	32	6時間37分	2時間5分	9時間3分	1時間12分	4時間58分	5時間32分
	30～39歳	58	6時間44分	1時間57分	11時間25分	2時間4分	4時間1分	2時間33分
	40～49歳	76	6時間40分	2時間17分	10時間33分	1時間32分	4時間6分	6時間18分
	50～59歳	64	7時間4分	2時間17分	10時間23分	1時間24分	4時間13分	4時間27分
	60～69歳	120	7時間29分	2時間25分	8時間3分	2時間17分	7時間19分	4時間24分
	70歳以上	107	7時間32分	2時間27分	6時間3分	2時間22分	8時間43分	3時間59分

問 19 あなたは、希望としては、どのような暮らし方をしたいと思いますか。あなたの希望に最も近いものを下から選んで○をつけてください。(○は1つ)

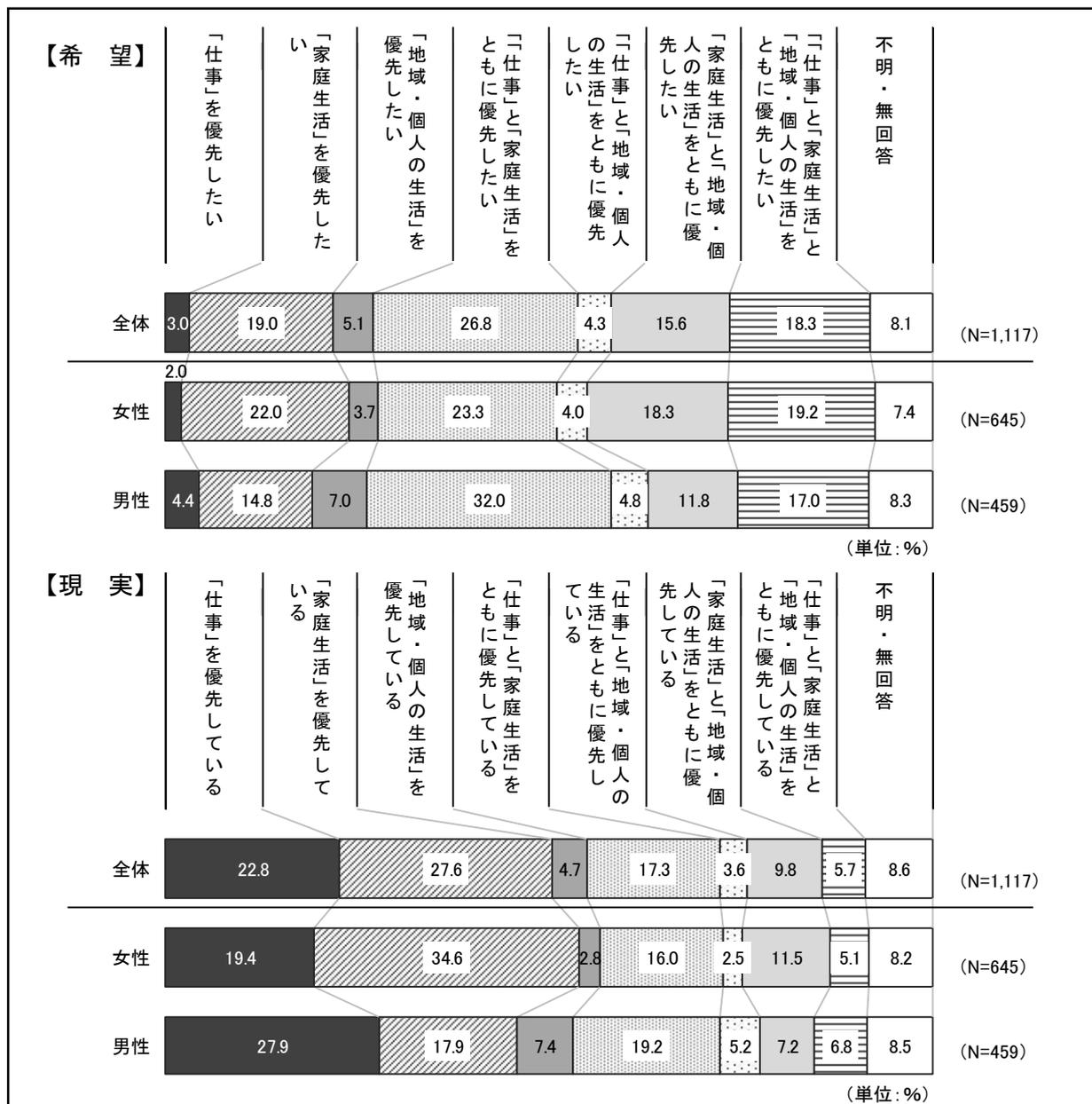
問 20 それでは、あなたの実際の生活に最も近いものはどれでしょうか。最も近いものを下から選んで○をつけてください。(○は1つ)

■希望では「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいが現実では、女性は家庭生活、男性は仕事をそれぞれ優先している。

男女ともに、希望では「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいが高くなっていますが、現実では女性は「家庭生活」を優先しているが、男性は「仕事」を優先しているがそれぞれ高くなっています。

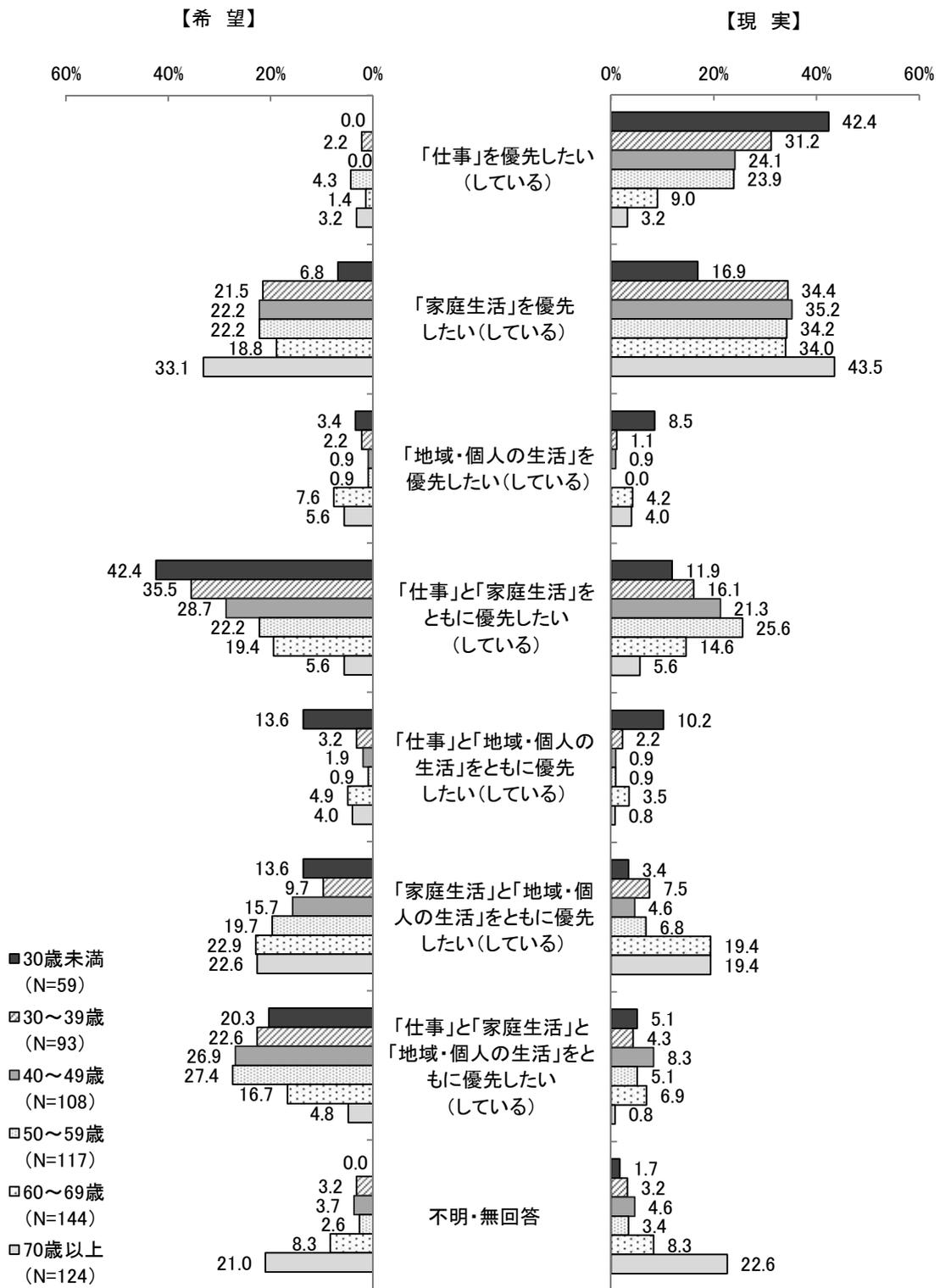
性別・年齢別にみると、男女ともに70歳未満の各年代では、希望と現実の暮らし方にギャップが生じています。

希望と現実の相関関係をみると、希望と現実が合致している人は、すべての暮らし方で女性より男性の割合が高くなっています。

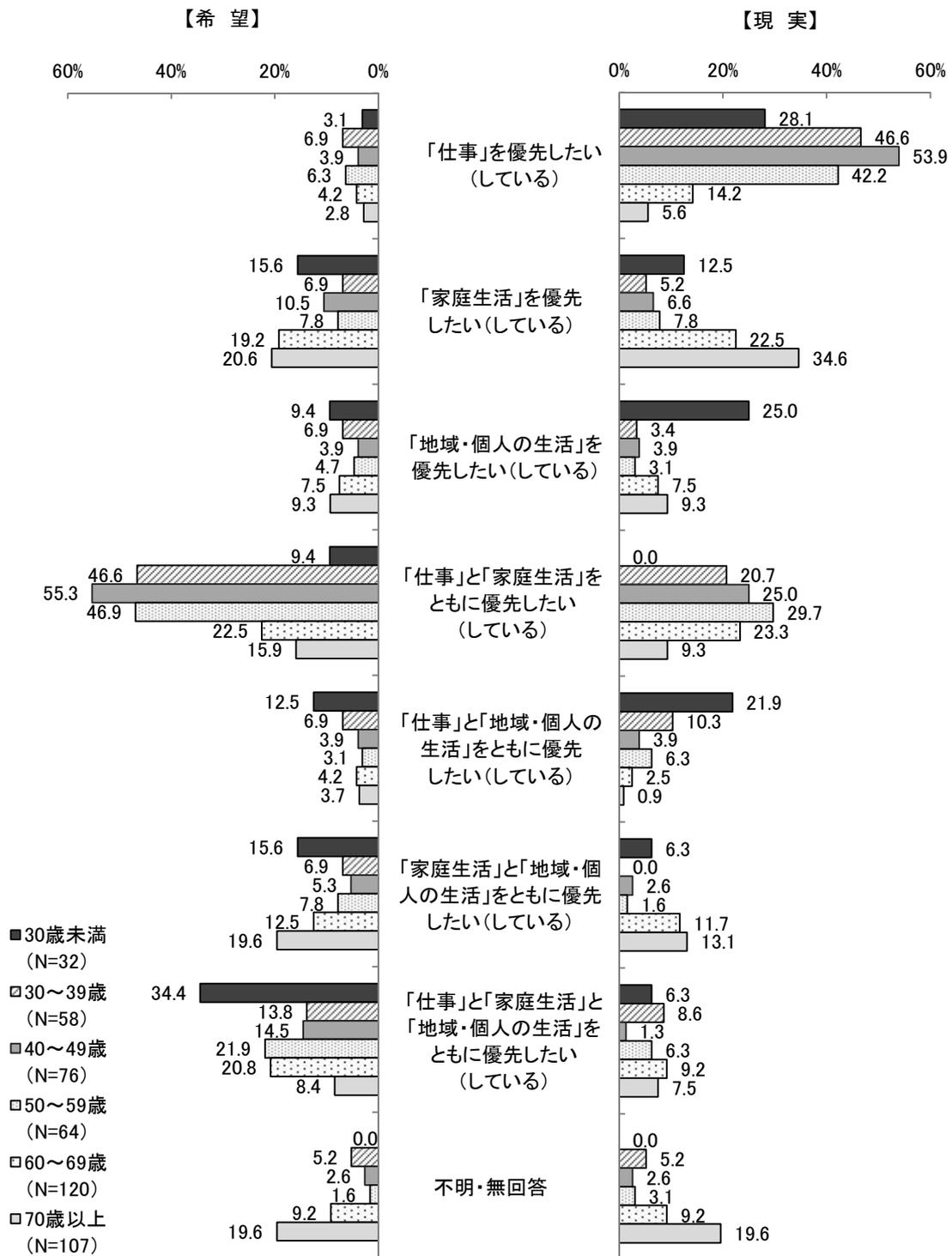


性別・年齢別

女性



男性



希望と現実の相関関係

		現 実								
		対象者数（人）	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	優先している 「仕事」と「家庭生活」をともに	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	
希 望	女 性	「仕事」を優先したい	13	46.2	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
		「家庭生活」を優先したい	142	15.5	69.0	0.7	12.0	0.0	1.4	0.0
		「地域・個人の生活」を優先したい	24	16.7	37.5	20.8	0.0	0.0	12.5	4.2
		「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	150	30.7	30.0	0.0	34.0	0.0	2.0	2.0
		「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	26	26.9	15.4	15.4	19.2	15.4	3.8	3.8
		「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	118	7.6	34.7	5.1	5.1	2.5	40.7	2.5
		「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	124	25.0	15.3	1.6	19.4	7.3	12.9	18.5
	男 性	「仕事」を優先したい	20	75.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	5.0
		「家庭生活」を優先したい	68	19.1	72.1	0.0	5.9	0.0	2.9	0.0
		「地域・個人の生活」を優先したい	32	12.5	12.5	62.5	3.1	6.3	3.1	0.0
		「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	147	47.6	6.1	0.0	42.9	0.0	0.7	1.4
		「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	22	9.1	4.5	27.3	13.6	36.4	0.0	9.1
		「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	54	16.7	24.1	7.4	3.7	1.9	42.6	3.7
		「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	78	19.2	5.1	3.8	16.7	16.7	7.7	30.8

(単位：%)

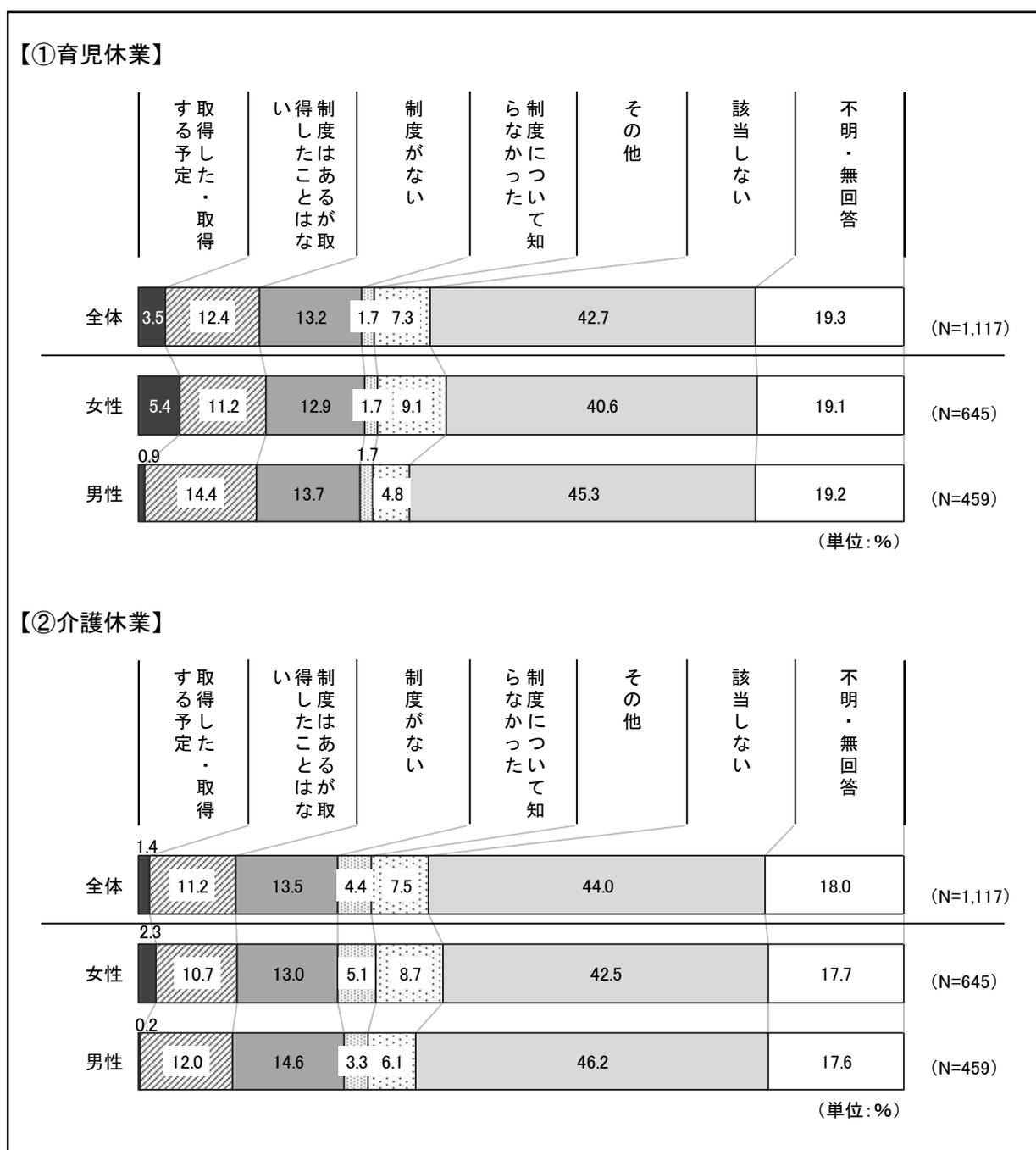
※太枠 内の数値は理想と現実が一致している割合

問 21 あなたは、育児休業・介護休業を取得されましたか。
 また、今後取得する予定がありますか。(①、②の項目ごとに○は1つずつ)

■育児休業、介護休業ともに男性より女性の取得者が多く、男性はわずかである。

①育児休業について、「取得した・取得する予定」は女性で5.4%、男性で0.9%と女性の方が高くなっており、男性の取得はわずかです。性別・年齢別にみると、「取得した・取得する予定」の割合は男女ともに30～39歳で他の年代より高くなっています。

②介護休業について「取得した・取得する予定」は全体で1.4%と育児休業より取得率が低くなっており、女性で2.3%、男性で0.2%と女性の方が高くなっています。性別・年齢別にみると、「取得した・取得する予定」の割合は女性の50～59歳で他の年代より高くなっています。



性別・年齢別

【①育児休業】

		対象者数（人）	取得した・取得する予定	取得したことがあるがはない	制度がない	制度について知らなかった	その他	該当しない	不明・無回答
女性	30歳未満	59	8.5	13.6	5.1	0.0	8.5	64.4	0.0
	30～39歳	93	12.9	21.5	20.4	1.1	8.6	30.1	5.4
	40～49歳	108	7.4	17.6	21.3	0.0	12.0	33.3	8.3
	50～59歳	117	5.1	7.7	14.5	2.6	10.3	51.3	8.5
	60～69歳	144	2.1	7.6	9.7	2.1	13.2	45.8	19.4
	70歳以上	124	0.8	4.0	5.6	3.2	1.6	27.4	57.3
男性	30歳未満	32	0.0	3.1	9.4	0.0	0.0	81.3	6.3
	30～39歳	58	5.2	25.9	17.2	6.9	3.4	36.2	5.2
	40～49歳	76	1.3	26.3	17.1	2.6	3.9	44.7	3.9
	50～59歳	64	0.0	25.0	26.6	0.0	7.8	34.4	6.3
	60～69歳	120	0.0	7.5	9.2	1.7	5.8	55.8	20.0
	70歳以上	107	0.0	3.7	8.4	0.0	3.7	35.5	48.6

(単位:%)

【②介護休業】

		対象者数（人）	取得した・取得する予定	取得したことがあるがはない	制度がない	制度について知らなかった	その他	該当しない	不明・無回答
女性	30歳未満	59	3.4	10.2	10.2	1.7	6.8	67.8	0.0
	30～39歳	93	1.1	12.9	20.4	2.2	7.5	46.2	9.7
	40～49歳	108	1.9	15.7	17.6	5.6	5.6	45.4	8.3
	50～59歳	117	4.3	13.7	16.2	7.7	13.7	36.8	7.7
	60～69歳	144	1.4	9.0	9.7	4.9	13.9	44.4	16.7
	70歳以上	124	2.4	4.0	5.6	6.5	2.4	28.2	50.8
男性	30歳未満	32	0.0	3.1	9.4	3.1	0.0	78.1	6.3
	30～39歳	58	0.0	19.0	15.5	10.3	1.7	48.3	5.2
	40～49歳	76	1.3	19.7	19.7	5.3	3.9	46.1	3.9
	50～59歳	64	0.0	23.4	23.4	3.1	6.3	39.1	4.7
	60～69歳	120	0.0	6.7	12.5	1.7	10.0	50.8	18.3
	70歳以上	107	0.0	4.7	8.4	0.0	6.5	35.5	44.9

(単位:%)

問 22 あなたは、女性の生き方について、(1) どのような生き方が望ましいと思われますか。(男性もお答えください。) また、(2) あなた(女性)の実際の生き方は、次のどれにあたりますか。(男性は、あなたの配偶者についてお答えください。配偶者のおられない方は⑨を選択してください。)((1)(2)それぞれに○は1つずつ)

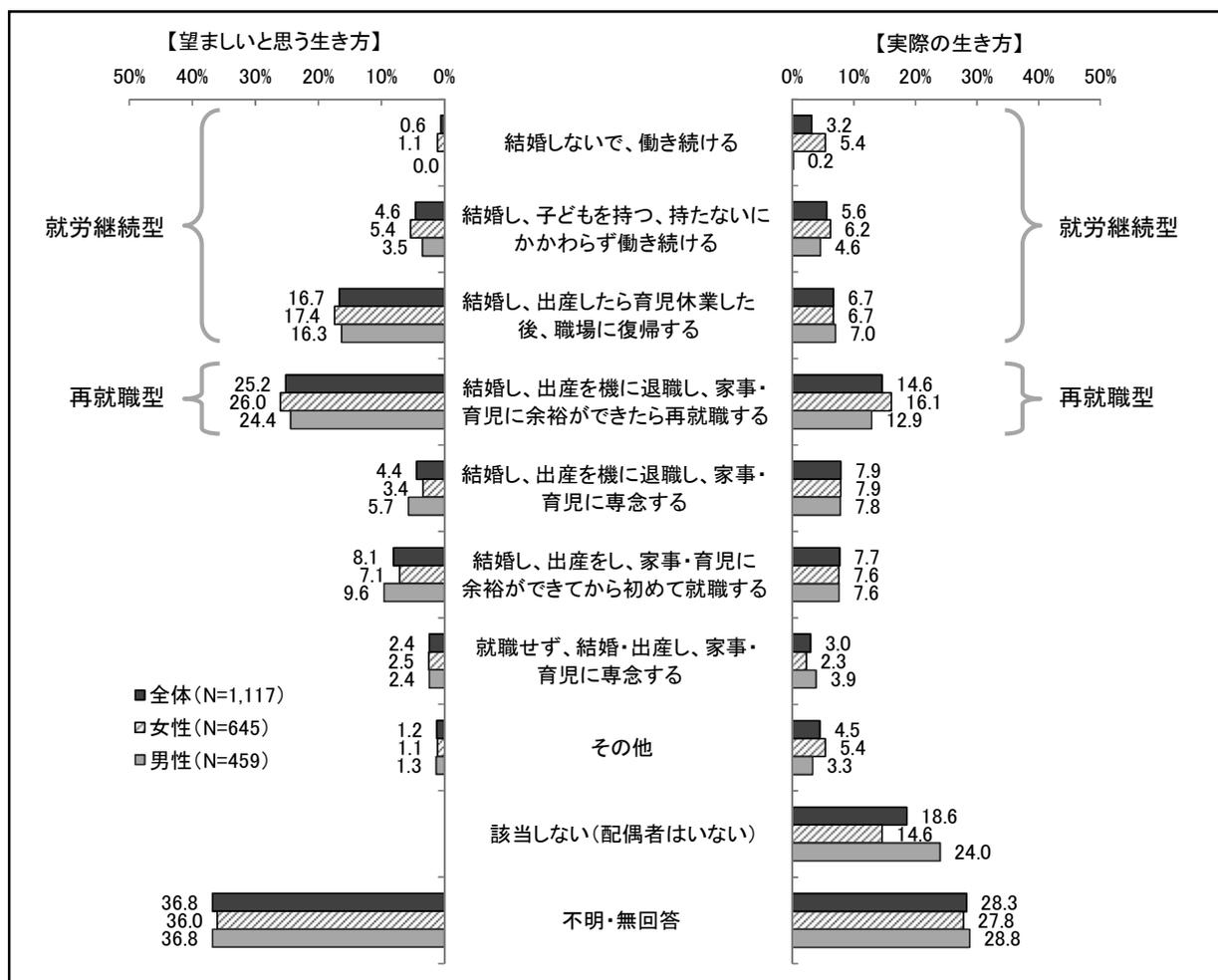
■女性が望む生き方は「再就職型」が26.0%、実際の生き方は「就労継続型」が18.3%と高い。

結婚・子育てと就労についての希望と現実が合致している人は少ない。

望ましいと思う生き方について、全体、男女ともに「再就職型」(「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する」)が高く、次いで「結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する」となっています。「就労継続型」(「結婚しないで、働き続ける」と「結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける」と「結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する」の合計)より「再就職型」の方がやや高くなっています。また、実際の生き方については全体、女性では「就労継続型」が高く、男性では「再就職型」が高くなっています。

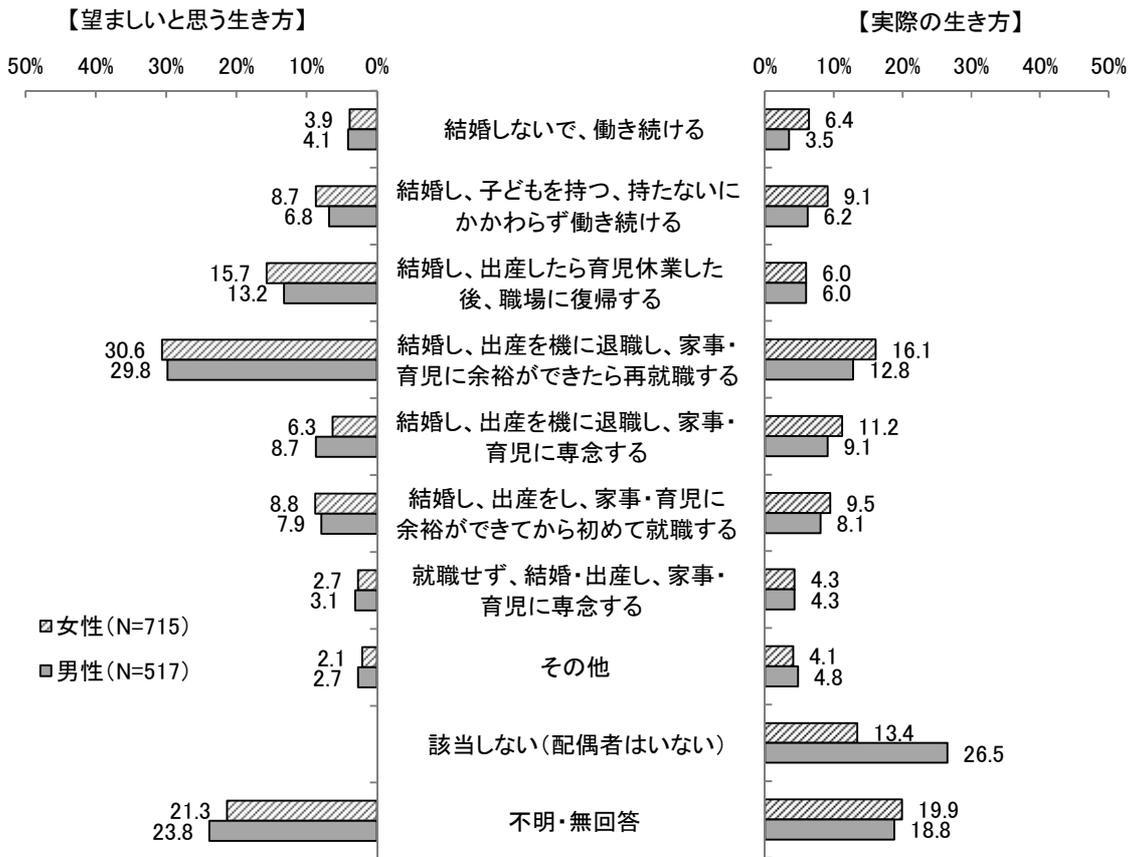
前回調査をみると、今回調査では「不明・無回答」の割合が高く比較は参考までとなりますが、望ましいと思う生き方については、ほぼ同様の傾向となっています。

性別・年齢別に望ましいと思う生き方をみると、男女ともにすべての年代で「就労継続型」と「再就職型」が同じ水準で高くなっていますが、女性の30~39歳、男性の50~59歳では他の年代に比べ「就労継続型」が高くなっています。



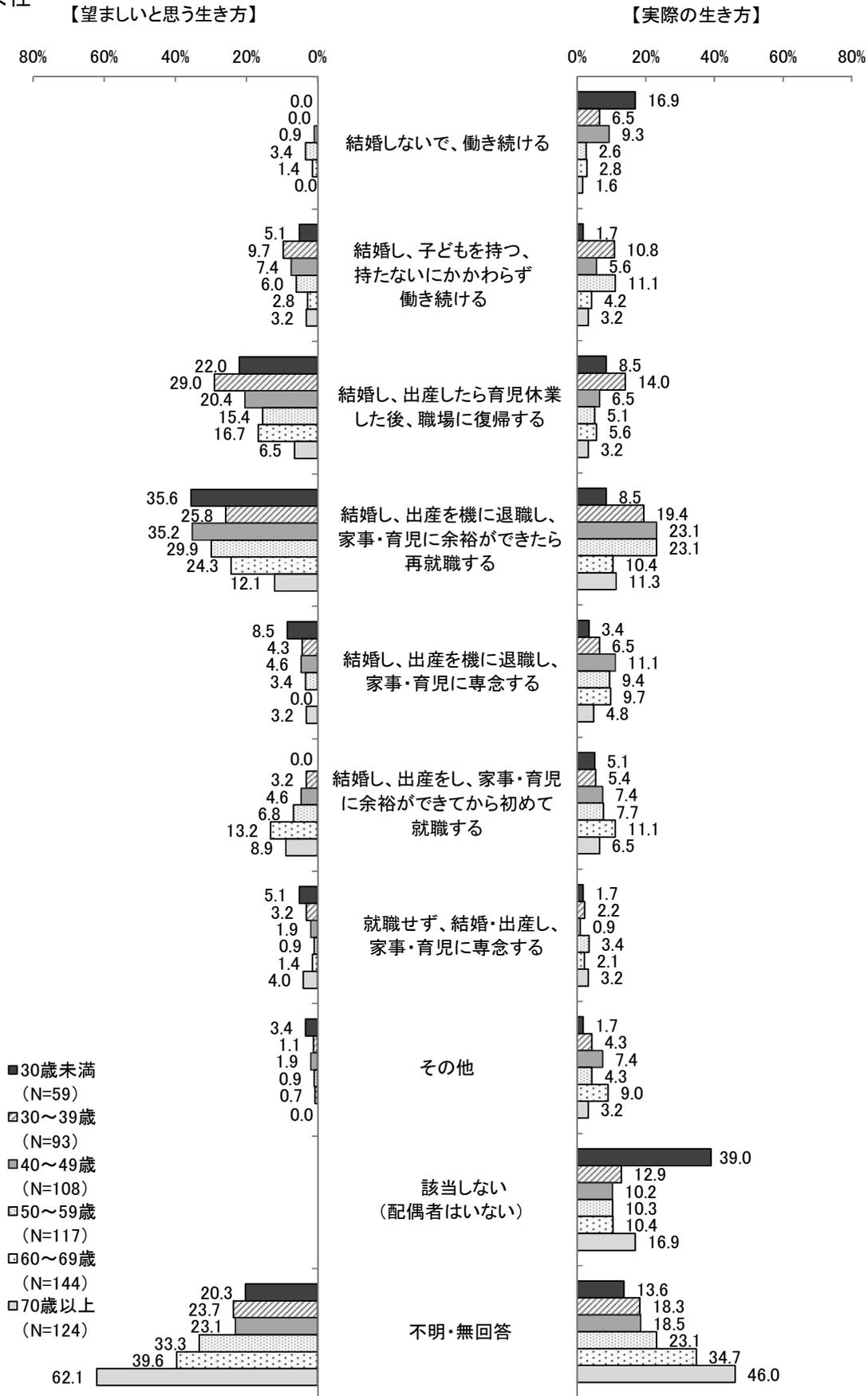
※「該当しない(配偶者はいない)」は「実際の生き方」のみの選択肢

前回調査(平成 21 年度)

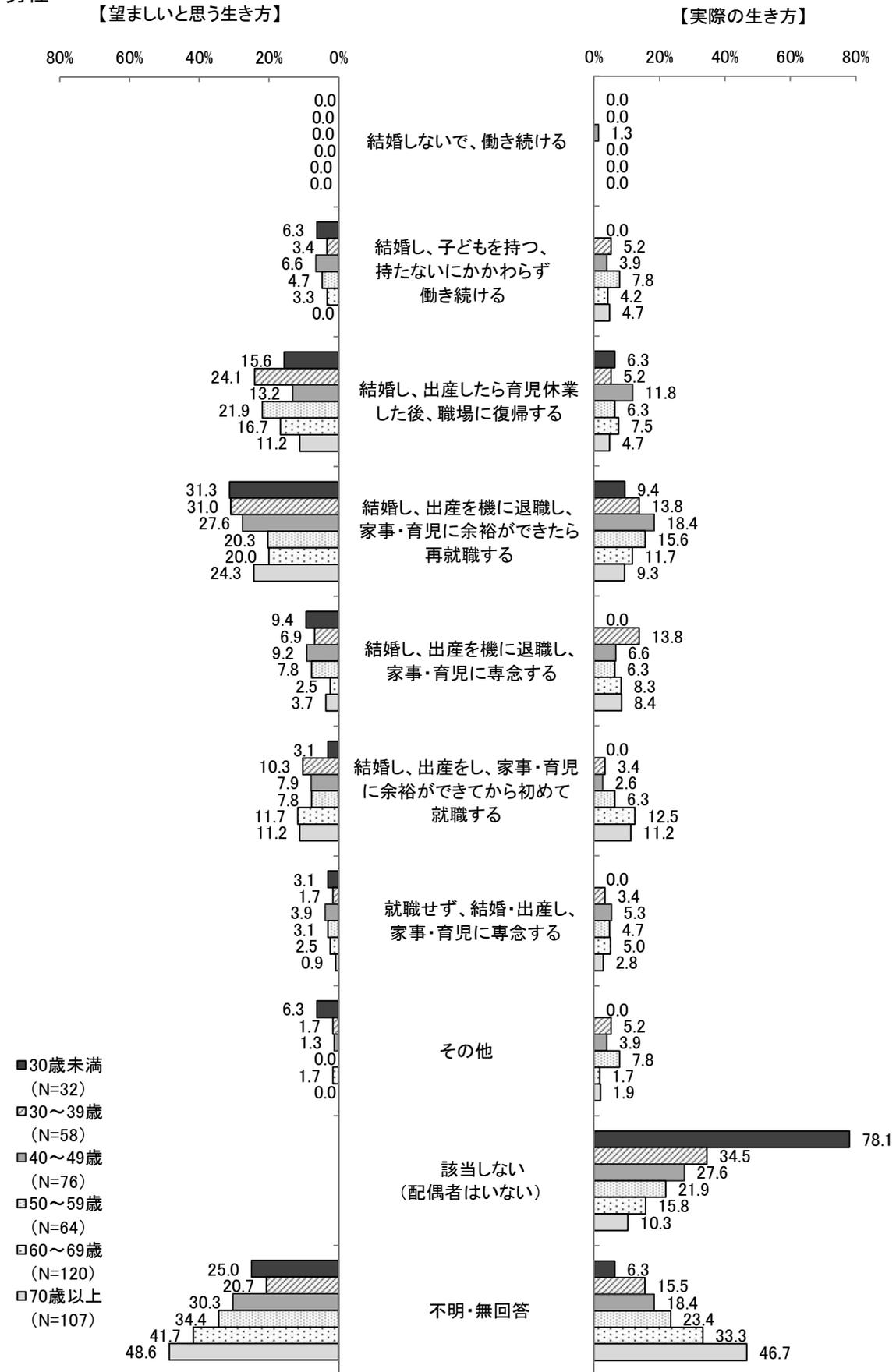


性別・年齢別

女性



男性



希望と現実の相関関係

		現 実								
		対象者数（人）	結婚しないで、働き続ける	働きたないにかかわらず働き続ける	結婚し、子どもを持つ、持たないにこだわらず	結婚し、出産したら復職する	家事・育児に余裕ができたなら再就職する	結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する	初めに余裕ができてから初めて就職する	結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する
希 望	女性	結婚しないで、働き続ける	7	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0
		結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける	35	11.4	5.7	11.4	17.1	5.7	11.4	5.7
		結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する	112	11.6	13.4	14.3	21.4	7.1	10.7	1.8
		結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する	168	6.0	7.1	4.8	30.4	14.9	7.7	3.0
		結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する	22	4.5	4.5	22.7	22.7	9.1	4.5	0.0
		結婚し、出産をし、家事・育児に余裕ができてから初めて就職する	46	2.2	4.3	4.3	8.7	17.4	19.6	6.5
		就職せず、結婚・出産し、家事・育児に専念する	16	6.3	6.3	6.3	12.5	6.3	6.3	18.8
	男性	結婚しないで、働き続ける	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける	16	6.3	25.0	0.0	18.8	6.3	0.0	0.0
		結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する	75	0.0	8.0	18.7	10.7	5.3	12.0	4.0
		結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する	112	0.0	2.7	6.3	27.7	16.1	3.6	4.5
		結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する	26	0.0	3.8	7.7	30.8	23.1	3.8	0.0
		結婚し、出産をし、家事・育児に余裕ができてから初めて就職する	44	0.0	4.5	6.8	6.8	11.4	40.9	6.8
		就職せず、結婚・出産し、家事・育児に専念する	11	0.0	9.1	18.2	9.1	9.1	18.2	27.3

(単位：%)

※太枠 内の数値は理想と現実が一致している割合

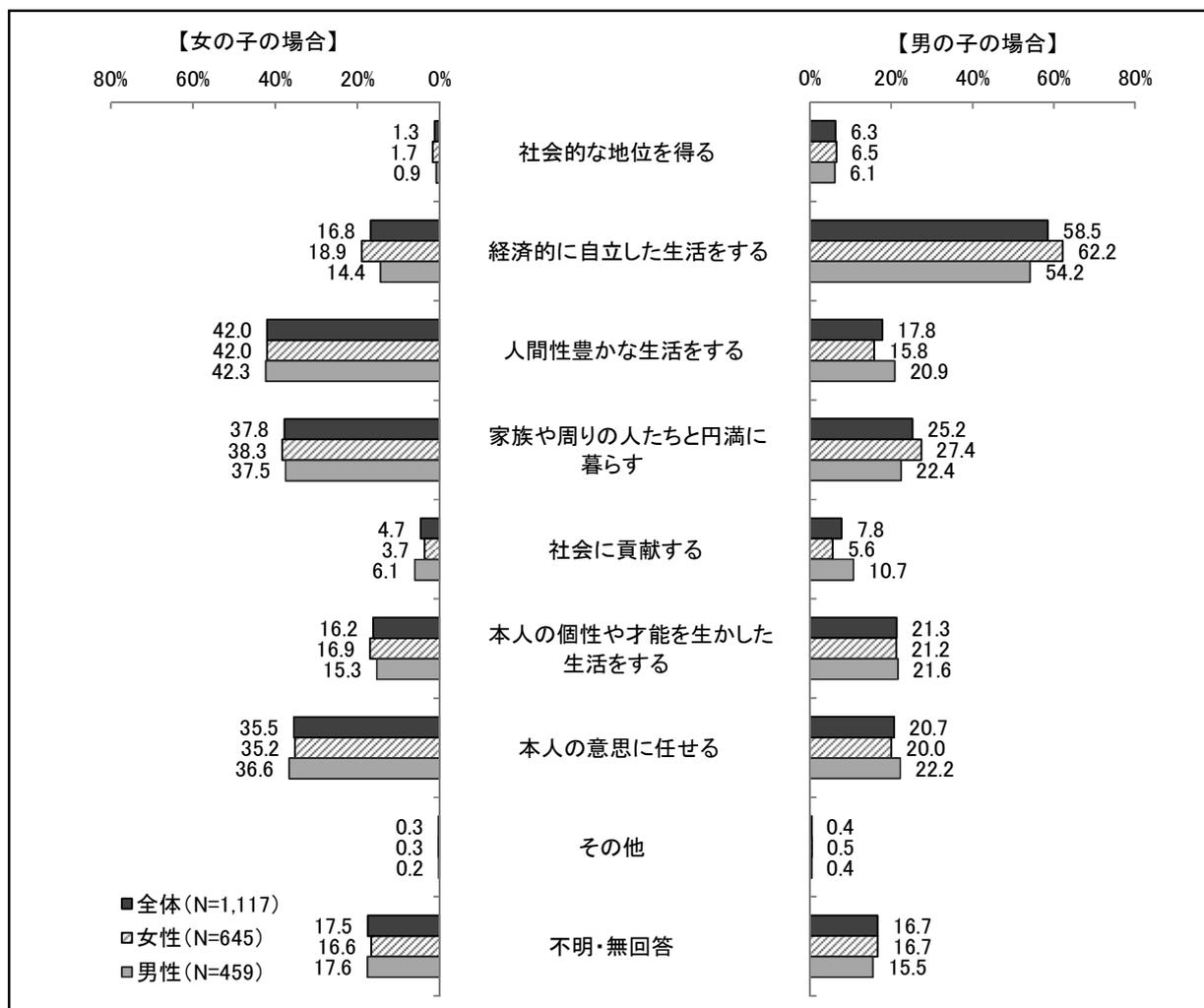
問 23 あなたは、自分の子どもには将来「どのような生き方」をしてほしいと思いますか。女の子、男の子それぞれの場合について、() 内にあなたの考えに近い項目の番号を記入してください。子どもがいない方も、仮にいた場合を想定してお答えください。

■女の子には「人間性豊かな生活をする」「家族や周りの人たちと円満に暮らす」ことが望まれている
男の子には「経済的に自立した生活をする」が最も望まれている

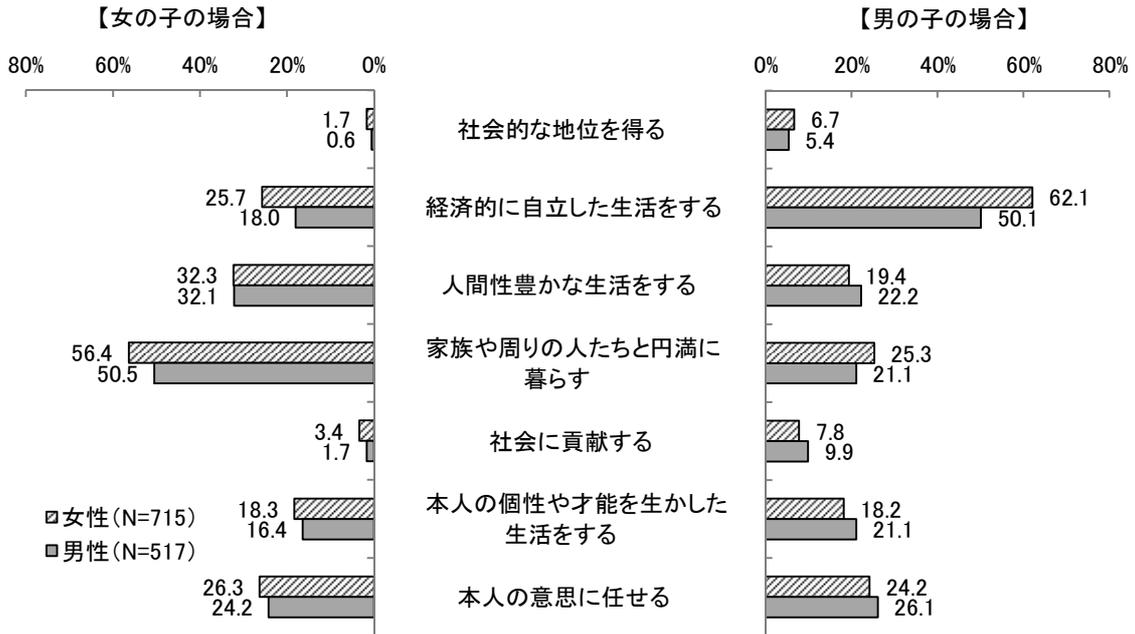
女の子の場合について、全体、男女ともに「人間性豊かな生活をする」に次いで「家族や周りの人たちと円満に暮らす」「本人の意思に任せる」が高くなっています。一方、男の子の場合について、全体、男女ともに「経済的に自立した生活をする」が5割半ばから6割前半と高く、次いで「家族や周りの人たちと円満に暮らす」「本人の個性や才能を生かした生活をする」「本人の意思に任せる」が2割から2割後半となっています。男女ともに女の子と男の子では望まれる生き方が異なります。

前回調査では女の子の場合、「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が男女ともに5割前半から5割後半と最も高くなっていましたが、今回調査では男女ともに3割後半と減少しており、「人間性豊かな生活をする」「本人の意思に任せる」は今回調査の方が男女ともに高くなっています。一方、男の子の場合は、おおむね同様の傾向となっています。

性別・年齢別にみると、女の子の場合では男女ともに30歳以上50歳未満では「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が、50歳以上では「人間性豊かな生活をする」が高くなっており、年齢で傾向が異なりますが、男の子の場合では男女ともにすべての年代で「経済的に自立した生活をする」が高くなっています。



前回調査(平成21年度)



性別・年齢別

	対象者数(人)		得る社会的な地位を	し経済的に自立する	生人間性豊かな	暮らすと周りの満に	人家族や周りの満に	社社会に貢献する	才本人の個性を	任本人の意思に	その他	不明・無回答
			を	する	な	に	に	を	に	を	を	を
女性	30歳未満	59	3.4	13.6	40.7	52.5	3.4	28.8	44.1	0.0	5.1	
		「女の子」の場合	10.2	61.0	10.2	39.0	5.1	20.3	40.7	0.0	5.1	
	30~39歳	93	3.2	24.7	46.2	50.5	2.2	24.7	35.5	2.2	3.2	
		「女の子」の場合	8.6	62.4	21.5	36.6	6.5	21.5	30.1	1.1	4.3	
	40~49歳	108	0.9	24.1	45.4	47.2	5.6	18.5	26.9	0.0	13.9	
		「女の子」の場合	5.6	63.0	22.2	32.4	8.3	22.2	17.6	0.9	13.0	
	50~59歳	117	0.9	26.5	42.7	41.0	2.6	23.1	30.8	0.0	11.1	
		「女の子」の場合	6.0	74.4	16.2	18.8	6.0	23.9	16.2	0.9	14.5	
60~69歳	144	0.7	18.1	41.0	28.5	6.3	10.4	41.0	0.0	19.4		
	「女の子」の場合	5.6	67.4	12.5	24.3	2.8	23.6	17.4	0.0	17.4		
70歳以上	124	2.4	6.5	37.1	23.4	1.6	5.6	35.5	0.0	36.3		
	「女の子」の場合	5.6	44.4	12.1	22.6	5.6	15.3	11.3	0.0	36.3		
「女の子」の場合												
男性	30歳未満	32	0.0	21.9	43.8	37.5	3.1	25.0	56.3	0.0	3.1	
		「女の子」の場合	3.1	53.1	28.1	21.9	6.3	31.3	50.0	0.0	0.0	
	30~39歳	58	1.7	22.4	43.1	46.6	8.6	22.4	39.7	0.0	3.4	
		「女の子」の場合	5.2	60.3	24.1	27.6	10.3	20.7	29.3	0.0	5.2	
	40~49歳	76	1.3	17.1	40.8	51.3	7.9	19.7	34.2	0.0	7.9	
		「女の子」の場合	6.6	64.5	22.4	27.6	9.2	22.4	26.3	0.0	7.9	
	50~59歳	64	1.6	17.2	42.2	40.6	6.3	21.9	32.8	0.0	15.6	
		「女の子」の場合	4.7	60.9	21.9	25.0	12.5	21.9	15.6	0.0	15.6	
60~69歳	120	0.8	9.2	39.2	31.7	5.8	15.0	41.7	0.8	20.8		
	「女の子」の場合	8.3	49.2	18.3	16.7	15.0	21.7	21.7	1.7	16.7		
70歳以上	107	0.0	10.3	46.7	28.0	4.7	1.9	28.0	0.0	32.7		
	「女の子」の場合	5.6	45.8	18.7	21.5	7.5	18.7	11.2	0.0	29.0		
「女の子」の場合												

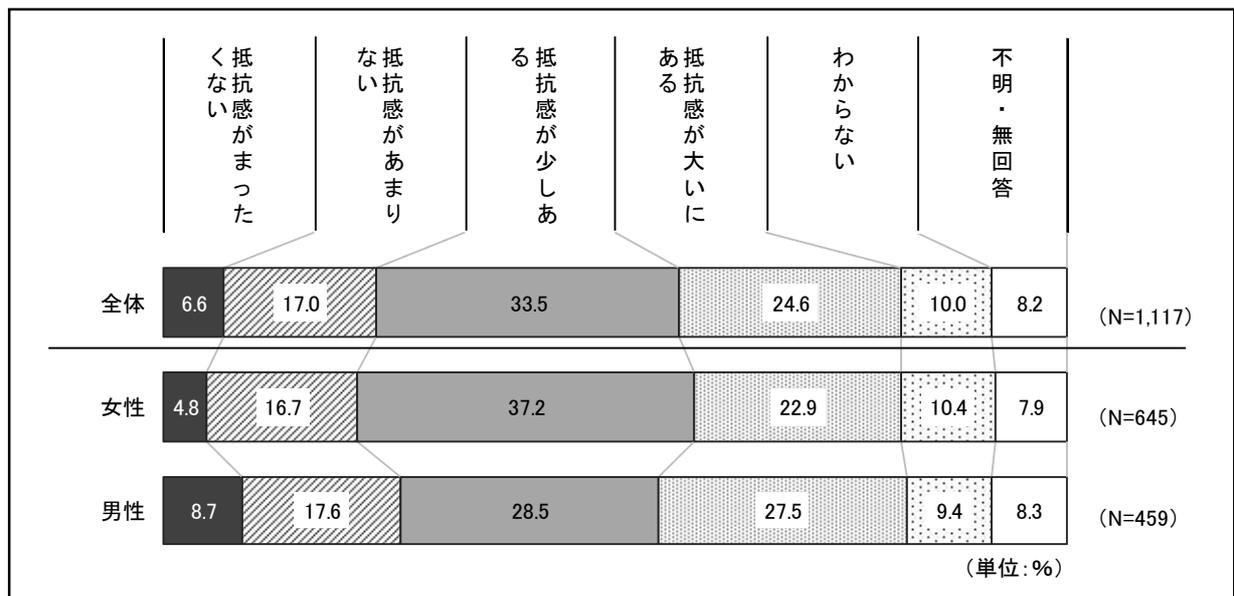
(単位:%)

問 24 あなたは、結婚していないカップルが、子どもを持つことに対して、どのように感じますか。(○は1つ)

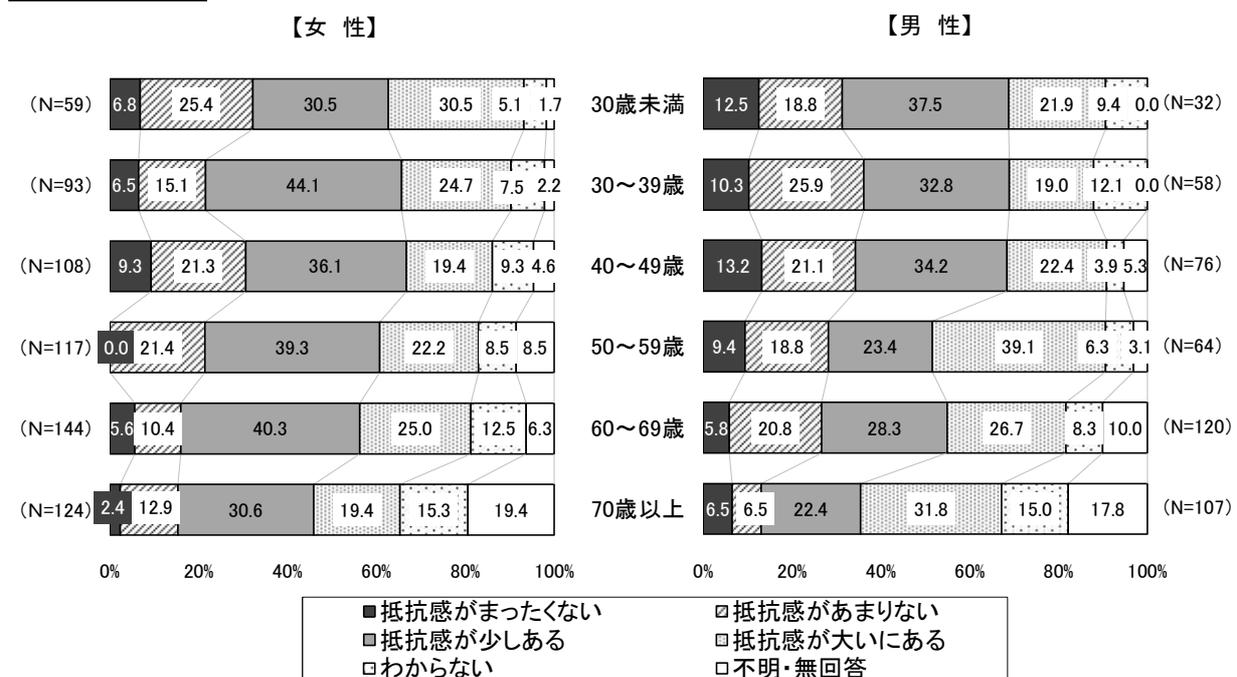
■婚外子に「抵抗がある」人は全体で 58.1%。

全体、男女ともに「抵抗感がある」(「抵抗感が少しある」と「抵抗感が大いにある」の合計)の方が「抵抗感がない」(「抵抗感がまったくない」と「抵抗感があまりない」の合計)より高くなっています。

性別・年齢別にみると、すべての年代で全体と同様の傾向となっていますが、60歳以上では「わからない」が他の年代に比べてやや高くなっています。



性別・年齢別

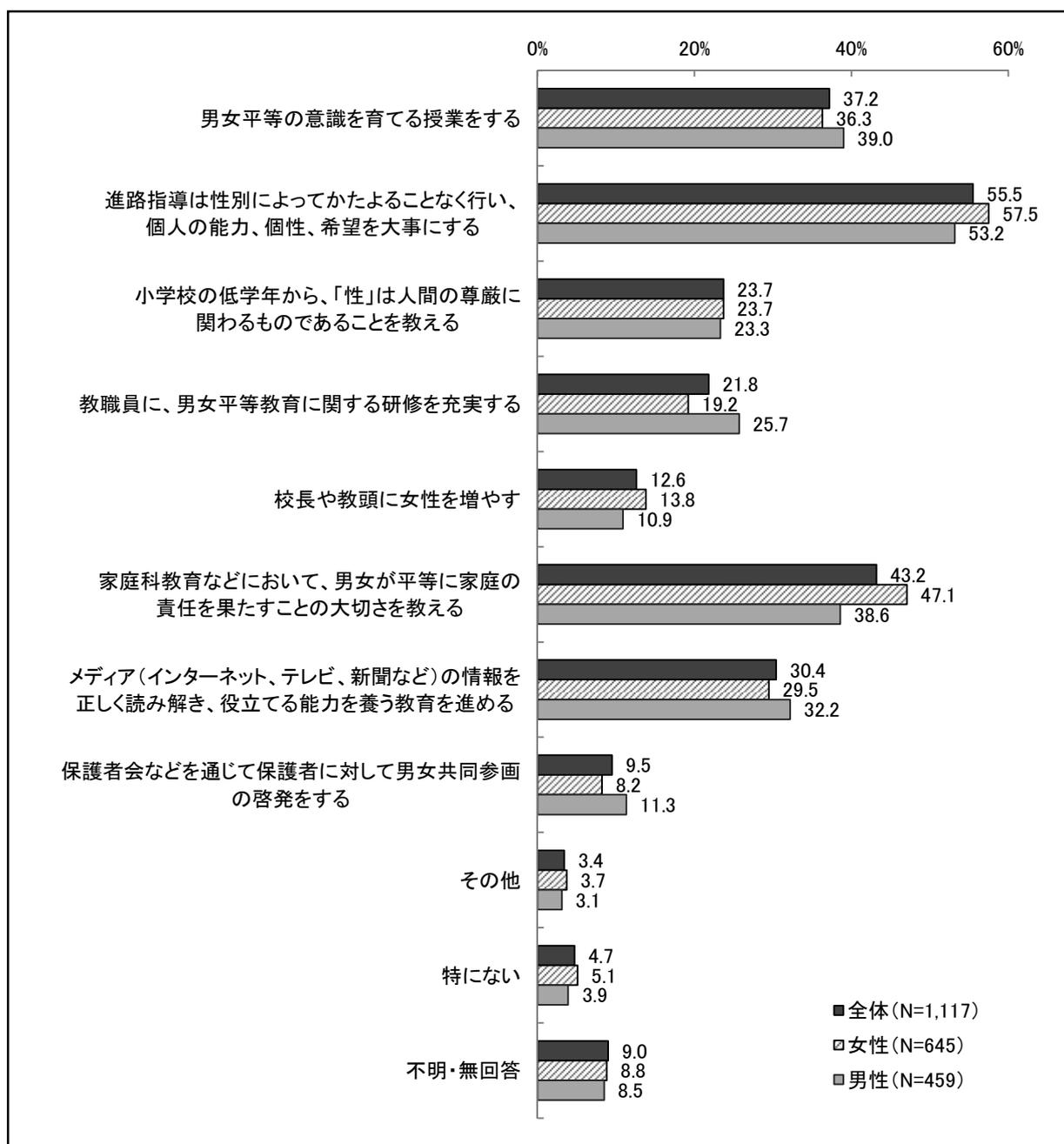


問 25 男女平等を進めるために、小学校・中学校でどのような取り組みが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

■男女平等を進める小・中学校の取り組みは進路指導を重視している。

全体、男女とも「進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」が5割前半から5割後半と最も高くなっており、次いで「家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」「男女平等の意識を育てる授業をする」が2位もしくは3位となっています。

性別・年齢別にみると、女性では年代ごとの傾向に大きな差はないものの、男性では30歳未満で「メディア（インターネット、テレビ、新聞など）の情報を正しく読み解き、役立てる能力を養う教育を進める」が59.4%と最も高くなっており、他の年代に比べて特に高くなっています。



性別・年齢別

